

2015年
平成27年

三重県立総合医療センター年報

地方独立行政法人
三重県立総合医療センター

平成27年三重県立総合医療センター年報

目 次

1	三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針	1
2	病院の概要	
	(1) 沿革	2
	(2) 施設整備の概要	5
	(3) 学会認定状況	8
	(4) 組織機構図	9
	(5) 職種別定数及び現在員数	10
3	各診療科・部門の概要	
	(1) 診療部（各診療科診療実績）	11
	(2) 看護部	40
	(3) 中央放射線部	45
	(4) 中央検査部	46
	(5) 薬剤部	47
	(6) 栄養管理室	48
	(7) 地域連携課	50
	(8) 医療安全管理部	54
	(9) 学会・研究会発表及び論文発表実績	59
4	統計データ	
	(1) 患者統計	81
	(2) 病歴管理室統計	84
	(3) 図書蔵書状況	94

1 三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針

基 本 理 念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

基 本 方 針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

受診される皆様の権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様の理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえで受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

2 病院の概要

(1) 沿革

昭和23年	8月	三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し、「三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院」として発足 初代院長・渡辺篤就任 病床数：113床
25年	4月	塩浜病院乙種看護婦養成所を設立
	6月	第二代院長・高安正夫就任
	12月	生活保護法に基づく保険医療機関指定 病床数：134床（普通病床：99床、結核病床：35床）許可
27年		借用中の国有財産（土地：7,270坪、建物：18棟1,809坪）を譲受
28年	2月	第6病棟（木造平屋建）竣工
	4月	三重県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校を併設
	5月	「総合病院」の名称使用承認
30年	7月	鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として、病院敷地内に「産業医学研究所」を設立
31年	7月	第1病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
32年	3月	第3病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
	8月	健康保険法に基づく保健医療機関指定 病床数：307床（一般：220床、結核：87床）許可
33年	10月	基準看護（一般・結核）、基準給食承認
	11月	病床数：307床（一般 208床、結核：87床・伝染病：12床）許可
34年	1月	国民保険法に基づく保険医療機関指定 東5病棟（鉄筋コンクリート4階建）竣工
	9月	病床数：465床（一般：354床、結核99床、伝染病：12床）許可
	11月	中央治療棟（鉄筋コンクリート3階建）竣工
35年	1月	県立大学行政機構改革に伴い、「三重県立大学医学部附属塩浜病院」、「県立大学医学部附属准看護婦学校」へ改称
36年	10月	手術室、ボイラー室及び変電室竣工
37年	5月	病床数：465床 （一般：354床、結核：91床、精神病：8床、伝染病：12床）許可
	8月	病床数：465床（一般：354床、結核：99床、伝染病、12床）許可
38年	3月	外来診療B棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
39年	3月	外来診療A棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
	7月	基準寝具承認
	12月	看護婦宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工
40年	4月	第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置 第三代院長・藤野敏行就任
41年	2月	病床数：465床（一般：354床、結核：52床、精神病47床、伝染病：12床）許可
	5月	「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
44年	4月	第四代院長・宮地一馬就任
48年	3月	院内保育所（木造平屋建）竣工
49年	4月	県立大学の国立移管により、三重県立大学医学部附属塩浜病院及び県立大学医学部附属准看護婦学校を統合し、三重県立大学附属病院として発足

護婦学校を廃止し、「三重県立中央病院」、「塩浜高等看護学院」として発足

第五代院長・高崎浩就任

	9月	病院名称を三重県立中央病院から「三重県立総合塩浜病院」に改名
50年	6月	第六代院長・森幸夫就任
51年	4月	解剖霊安棟（木造）を鉄筋2階建に改築
	5月	給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修
52年	4月	第5病棟西棟（木造2階建）を鉄筋コンクリート4階建に改築
53年	4月	第1病棟1階を検査室と薬品倉庫に改修
54年	3月	防災設備（スプリンクラー等）を改修
54年	9月	病院群輪番制病院
55年	8月	外来棟冷房設置及び駐車場を整備
57年	8月	基準寝具承認
58年	1月	医事業務の電算化
	3月	第3病棟の病床（産婦人科）を第5病棟に移設（7看護単位）、塩浜高等看護学院廃止
	6月	X線コンピュータ断層診断装置を設置
59年	3月	第6、第7病棟、第三宿舎、倉庫2棟の木造建築解体撤去、東5病棟改修、外壁塗装
	8月	結核病床52床、精神病床47床、伝染病12床を廃止（一般病床354床許可）
60年	3月	食器洗浄棟設置
61年	12月	「県立総合病院整備基本計画」策定
62年	3月	注射用与薬車を全病棟へ導入、錠剤自動分包機導入
平成	2年	3月 高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置
	3年	3月 県立総合医療センター建設用地取得
	4月	第七代院長・杉山陽一就任
	4年	1月 県立総合医療センター建設工事着工
		3月 県立総合医療センター（一般：350床、救命救急センター：30床）開設許可
		7月 ヘリポート設置許可承認
	5年	4月 夜間看護等加算の承認
	6年	6月 医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工
		4月 医事課を医事経営課に改める
		6月 県立総合医療センター竣工
		9月 県立総合塩浜病院閉院
平成6年	10月	県立総合医療センター開院
		救急病院指定
		身体障害者福祉法による更生医療指定病院承認
		結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院承認
		母子保健法による養育医療指定病院承認
		臨床研修指定病院承認
		保険医療機関指定承認
		労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢探型指導医指定変更承認
		労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
	7年	4月 NICU施設認定
	8年	2月 「エイズ治療拠点病院」指定
		4月 八代院長・宗行万之助就任

- 9 年 1 月 「基幹災害医療センター」指定（24 年 4 月より「基幹災害拠点病院」指定）
- 11 年 4 月 九代院長・鈴木宏志就任
適時適温給食導入
- 12 年 1 月 西棟・手術棟完成
- 13 年 3 月 6 階東病棟改修
- 4 月 「第二種感染症病床指定医療機関」指定
病床数（一般 412 床、救命救急センター 30 床、感染症 4 床）許可
- 7 月 セミオープンベット開設
- 14 年 8 月 「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 10 月 十代院長：小西得司就任
- 15 年 3 月 地域周産期母子医療センター指定（NICU 3 床、GCU 7 床）
- 4 月 「へき地医療拠点病院」指定
- 8 月 新オーダーリングシステム導入
- 9 月 救命救急センター HCU ICU CCU に分離（ICU CCU 7 床→6 床）
- 16 年 3 月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver. 3）
パーキングシステム設置
- 4 月 患者相談窓口設置
- 6 月 外来化学療法室を開設（6 床）
- 17 年 11 月 太陽光発電システム設置
- 18 年 1 月 緩和ケア外来開設
- 8 月 初代電子カルテシステム導入
- 20 年 3 月 放射線治療システム（ライナック）設置更新
- 4 月 十一代院長：高瀬幸次郎就任
クレジットカード決済開始
災害用地下水供給システム設置
- 7 月 セカンドオピニオン外来開設
- 10 月 外来化学療法室の移転（2 階）及び増床（7 床→10 床）
- 11 月 自治会との災害給水協定締結
血管造影撮影装置（心臓・頭腹部アンギオ）設置
- 21 年 3 月 三重 DMAT 派遣協定締結（三重 DMAT 派遣病院）
- 4 月 DPC（医療費定額支払制度）開始
- 6 月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver. 5）
- 8 月 がんサポート室開設
- 10 月 7 対 1 看護基準取得
- 22 年 6 月 地域連携室移転整備（「かけはし」の開設）
- 10 月 320 列マルチスライス CT 設置
- 23 年 8 月 2 代目電子カルテシステム導入
- 24 年 4 月 地方独立行政法人化
初代理事長：高瀬幸次郎就任（院長兼務）
- 25 年 3 月 内視鏡棟完成（内視鏡センター設置）
病床数（一般 409 床、救命救急センター 30 床、感染症 4 床）許可
- 4 月 周産期棟完成
- 6 月 地域医療支援病院承認

- 26年 2月 MFICU 5床を供用開始
NICU増床（3床→6床）、GCU増床（7床→12床）
6月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新取得（3rdG Ver1.0）
27年 1月 3.0 テスラMRI増設
4月 「NPO 法人卒後臨床研修評価機構認定病院」認定
10月 「三重県がん診療連携拠点病院」指定

(2) 施設設備の概要

●所在地 四日市市大字日永 5450 番の 132

●病床数

一般……………	409 床
感染症病床……………	4 床
救命救急センター……………	30 床
計	443 床

●診療科目

内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
神経内科	外科	呼吸器外科	心臓血管外科
脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科
皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻いんこう科
精神科	放射線診断科	放射線治療科	麻酔科
病理診断科			

●本館敷地・建物概要

敷地面積……………	59,450.90 m ²
建物規模……………	地下1階、地上7階、塔屋2階
建物構造……………	高層部 SRC 造、低層部 RC 造
建築面積……………	9,764.56 m ²
延床面積……………	29,977.74 m ²
駐車台数……………	約 700 台

●附属施設

医師公舎	RC 2 階建、延床面積：	517.86 m ²	(12 戸)
看護師宿舎	RC 3 階建、延床面積：	1,758.99 m ²	(68 室)
院内保育所	RC 平屋建、延床面積：	233.40 m ²	

●厚生施設

食堂（7階）、コンビニエンスストア、自販機コーナー、授乳室（1階）

●付帯設備

電子カルテシステム・オーダーリングシステム
気送管搬送システム
屋上ヘリポート
院外処方FAXステーション
災害備蓄倉庫

●電気設備

受変電設備	受電電圧 6.6 kV 変圧器容量 4,570 kVA
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3 相 3 線 6.6 kV 1,000 kVA × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220V 200 kVA × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220/100V 150 kVA × 1 台 ディーゼルエンジン 3 相 3 線 220V 150 kVA × 1 台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000 L (A 重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75 kVA × 1 台 医療用定格出力 50 kVA × 1 台
電気時計設備	親時計 1 台、子時計 268 台
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,440W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR 型複合型受信機 (5 系統、1018 アドレス)
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、防犯カメラ設備、太陽光発電装置

●空気調和設備

主熱源	空気熱源スクリーヒートポンプ冷凍機 2 台、ガス焚冷温水発生機 1 台 合計約 610 冷凍トン
主空調方式	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
空調制御設備	中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを除く)
換気設備	給気設備、排気設備

●給排水衛生設備

給水設備	上水受水槽 216,000L × 1 台 井水受水槽 102,000L × 1 台 上水高架水槽 60,000L × 1 台 井水高架水槽 40,000L × 1 台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、検査系の 4 系 統処理能力 712 m ³ /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m ³ /日
ボイラー設備	炉筒煙管式ボイラー 2 基最高使用圧力 10kg/ccli 最大蒸発量 2.4t/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気
エレベータ設備	一般用 2 台、業務用 4 台、配膳用 1 台、ヘリポート搬送用 1 台、検体搬送用 1 台

●気送管搬送設備

23 ステーション

外来系・病棟系 2 系統

●ヘリポート設備

陸上ヘリポート（屋上）耐重量 6.4 t

着陸帯 22 メートル（長さ）×18 メートル（幅）

●高額備品一覧

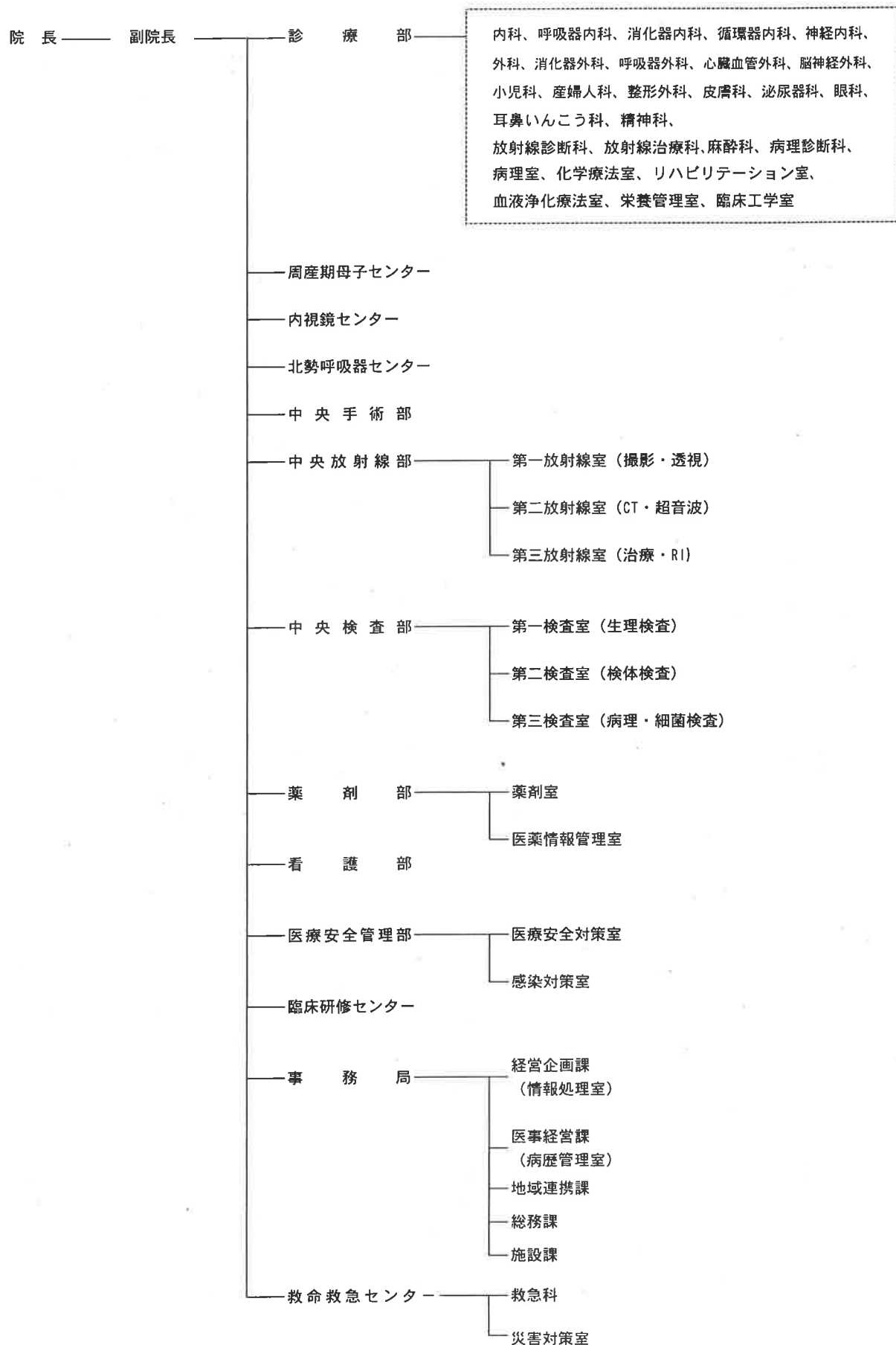
	資産名称	メーカー	規格	数量
2009	汎用超音波診断装置	GE	LOJ1Q E9	1
2009	関節鏡視下カメラシステム 一式	ジンマー	Linbatec IM400	1
2009	ガンマカメラ	シーメンス	Symbia E	1
2009	X線透視撮影装置	東芝メディカル	ZEXIRA	2
2010	X線CT診断装置	東芝メディカルシステムズ	Aquilion ONE	1
2010	患者監視装置システム（救命救急センター）	日本光電	MU-960R他	1
2010	ハイビジョンカメラシステム	カールストルツ	IMAGEL HDカメラコントロールユニット	1
2011	調剤支援システム	トーショー		1
2011	麻酔記録モニタシステム	日本光電	CAP-0500, CNS-9601他	1
2011	手術室无影灯システム	山田医療照明	SKYLUX SKYLED R9 BR01H	1
2011	人事給与システム（ソフトウェア分）	株式会社ワークスアプリケーション		1
2011	財務会計システム	株式会社BSNアイネット		1
2011	新医療情報システム（電子カルテ・オーダーリングシステム）	（株）ソフトウェア・サービス		1
2011	新医療情報システム（放射線システムPACS）	ピー・エス・ピー（株）		1
2012	汎用超音波診断装置	GEヘルスケア		1
2012	関節鏡視下カメラシステム	ジンマー		1
2012	生体情報監視装置	フィリップス		1
2012	高度集中治療用サプライユニット	ドレーゲル		1
2012	眼底カメラ	日本ルミナス		1
2013	マンモトーム付乳房撮影装置	富士フィルムメディカル 他	AMULET F, SCM1 他	1
2013	高圧蒸気滅菌装置	㈱ウドノ医機	SHS-U1413-D/FL	3
2013	生化学自動分析装置	㈱日立ハイテクノロジーズ	LABOSPECT006	1
2013	レーザー光凝固装置	トプコン	PascalStreamLineYellow	1
2013	超音波診断装置	GE Healthcare	VolusonE8	1
2014	3.0T-MRI	フィリップス	Ingenia 3.0T R5	1
2014	泌尿器用X線検診システム	島津製作所	UROVISION II	1
2014	超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7	1
2015	泌尿器電子内視鏡システム	オリンパス	VISERA ELITE 他	1
2015	心臓超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7G	1

(3) 学会認定状況

- ・ 日本内科学会認定医制度教育病院
- ・ 日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・ 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・ 日本整形外科学会専門医研修施設
- ・ 日本産婦人科学会総合型専攻医指導施設
- ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・ 日本脳神経外科学会専門医訓練施設（A項施設）
- ・ 日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・ 日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・ 日本消化器病学会認定施設
- ・ 日本胸部外科学会認定医認定制度指定病院
- ・ 日本呼吸器外科学会専門医認定修練施設
- ・ 日本循環器学会循環器専門医研修施設
- ・ 日本肝臓学会認定施設
- ・ 日本神経学会准教育施設
- ・ 日本脳卒中学会認定研修教育病院
- ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）
- ・ 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- ・ 日本大腸肛門病学会認定施設
- ・ 日本周産期・新生児医学会新生児認定施設
- ・ 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設
- ・ 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・ 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構・基幹施設
- ・ 呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設
- ・ 日本乳癌学会関連施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・ 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・ 日本アレルギー学会認定準教育施設
- ・ 日本高血圧学会専門医認定施設
- ・ 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・ マンモグラフィー検診精度管理中央委員会マンモグラフィー検診施設画像評価認定施設
- ・ 日本眼科科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設
- ・ 日本臨床衛生検査技師会精度保証認証施設

(4) 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター 組織機構図

平成27年12月31日



(5) 職種別定数及び現在員数

平成27年4月1日現在

職種	区分	配置数	現在員	過不足	嘱託/業務補助等
一般職	一般事務職	25	26	1	18
	電気技師	2	2	0	0
	情報技師	1	1	0	0
	建築技師	0	0	0	0
	保育士	0	0	0	0
	医師	97	100	3	0
	薬剤師	17	17	0	0
	管理栄養士	3	3	0	2
	臨床検査技師	22	22	0	3
	診療放射線技師	20	20	0	1
	理学療法士	5	5	0	0
	作業療法士	2	2	0	0
	言語聴覚士	1	1	0	1
	臨床工学技士	4	4	0	0
	看護師・助産師	364	403	39	49
	准看護師	0	1	1	2
	医療福祉技師	3	3	0	1
	診療情報管理士	1	1	0	1
	司書	0	0	0	1
	保健師	0	0	0	0
	医師事務補助職員	0	0	0	3
	小計	567	611	44	82
現業職	病院施設管理員	1	1	0	0
	施設管理専門員	0	0	0	1
	看護助手	0	0	0	10
	看護補助	0	0	0	18
	小計	1	1	0	29
合計		568	612	44	111

*現在員数には県等からの派遣職員を含む

3 各診療科・部門の概要

(1) 診療部（各診療科診療実績）

➤ 呼吸器内科

主な疾患について記します。

<肺癌>

肺癌に対する集学的治療に力を入れています。患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるとこちらが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。また、院内緩和外来の開設により、痛みなどの症状にも、より対処できるようになりました。

<気管支喘息>

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。呼気中一酸化窒素濃度測定による気道炎症の評価や、モストグラフによる気道抵抗評価を行うことでより客観的な管理が可能になりました。

<慢性閉塞性肺疾患 COPD>

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。長時間作動型吸入抗コリン薬などによる治療や呼吸リハビリテーションにより労作時息切れなどの改善を目指します。重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

<肺炎>

高齢化社会を反映して肺炎による死亡は増加の一途を辿っており、ついに脳卒中を抜いて日本人の死因の第3位になりました。当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

<その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行いますが、急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくことになります。

3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

◆平成 27 年入院疾患の概要

疾 患 名	事 例 数	備 考
肺癌	328 例	
肺炎	272 例	
慢性閉塞性肺疾患 COPD	102 例	肺炎等と重複あり
自然気胸	59 例	特発性 29、続発性 30
間質性肺炎	46 例	
気管支喘息	57 例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績（5年生存率など）

肺癌は治療成績がよい癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、標準を上まわる治療成績を出しています。

◆その他

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、
日本感染症学会認定施設、日本アレルギー学会準認定施設

◆診療方針

消化器内科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝癌に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っております。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

◆主疾患を含む治療性成績

平成 27 年 消化器科入院診療実績

肝癌	74
食道癌	9
胃癌	45
十二指腸・小腸癌	5
大腸癌	42
胆道癌	35
膵癌	34
胃ポリープ	10
大腸ポリープ	80
胃・食道静脈瘤	17
胃・十二指腸潰瘍	49
胃腸炎	43
消化管出血	49
腸閉塞	41
肝炎	10
肝硬変・肝不全	27
胆石症・胆道炎	115
膵炎	18
その他	126
総数	835

◆主疾患治療プロトコール

胃・大腸ポリペクトミークリパス

ウイルス肝炎に対するインターフェロン治療クリパス

肝臓に対する動脈塞栓術、エタノール局注、ラジオ波焼灼療法のクリパス

食道静脈瘤内視鏡的治療クリパス

などがあります。

◆その他

平成 27 年 消化器検査および治療施行数 (下記は当院全体の施行数です)

上部消化管内視鏡	2066 例
上部拡大内視鏡	247 例
経鼻内視鏡	61 例
超音波内視鏡(上部消化管)	26 例
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	21 例
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	3 例
食道静脈瘤結紮術(EVL)/硬化療法(EIS)	21 例/13 例
上部消化管内視鏡的止血術	77 例
内視鏡的上部消化管ステント挿入術	6 例
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	35 例
下部消化管内視鏡	1464 例
下部拡大内視鏡	77 例
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	363 例
下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	6 例
内視鏡的下部消化管ステント挿入術	5 例
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	151 例
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD/ERBD)	20 例/60 例
内視鏡的総胆管結石除去術(EST/EPBD)	54 例/9 例
内視鏡的胆管ステント挿入術	7 例
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	14 例
カプセル内視鏡(小腸/大腸)	5 例/10 例
肝動脈塞栓療法 (TAE・TAI)	40 例
肝腫瘍ラジオ波焼灼術(CT・エコーガイド下)	19 例

当科は心臓血管疾患および高血圧、脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病など広範囲にわたる診療を行っております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に迅速に対応すべく待機医を配しております。また心臓血管外科医と密な連携もとりながら常に最適な医療が提供できるような体制を整えています。

虚血性心疾患の方には、外来で施行可能な3つの画像診断を整えています。核医学検査（心筋シンチ）は年間300件以上の検査数があり、県下でも最も多い検査数となっています。320列マルチスライスCTによる冠動脈CTは15分程度で冠動脈の狭窄度、石灰化の分布が評価でき、年々検査数が増加しています。また最近では心臓MRIの施行も可能となり、心機能・梗塞の範囲・虚血の有無など心臓に関する多くの情報が得られる画像診断方法として、今後さらなる発展が期待されます。入院下で行う心臓カテーテル検査においては、なるべく患者さんの負担にならないよう手首の動脈を選択して検査を行っております。血行再建の選択においては、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法（投薬観察）か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈形成術においても、検査時と同様に大部分の症例で手首の動脈より治療を行っており、侵襲が少なく治療後も安楽にお過ごしいただけます。また再狭窄の少ない薬剤溶出性ステントを必要と判断される患者さんには積極的に使用するようにし、再狭窄の減少とともに確実な治療成果を目指しています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院投薬治療、補助循環装置などを駆使して病態に則した治療を行い、また再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、確実な診断と、投薬やペースメーカーによる治療にあたっています。より高度な不整脈治療であるカテーテルアブレーションを希望される場合は、大学病院の専門医と密な連携をとりながら治療方針を決定し、大学病院に紹介させていただく場合もあります。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライスCT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療（抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など）を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科と連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は症例数も多く、緊急性が高い疾患が多いため、当科では24時間、365日体制で複数の医師が当直または待機をし、診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんに対しても病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。

◆入院疾患の概要（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

疾患名	事例数
狭 心 症	256
心 不 全	228
急 性 心 筋 梗 塞	51
慢 性 虚 血 性 疾 患	111
肥 大 型 心 筋 症	6
拡 張 型 心 筋 症	7

◆主疾患を含む治療性成績（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

冠動脈造影総数 328 例（経皮的冠動脈形成術を除く）

経皮的冠動脈形成術数 111 例 初期成功率 99.1%（110/111 例）

末梢動脈血管内治療 9 例

電気生理検査 27 例

ペースメーカー植え込み術 38 例(新規 24 例 交換 14 例)

◆主疾患プロトコール

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞 末梢動脈血管内治療

急性大動脈解離 ペースメーカー植込み・電池交換

➤ 神経内科

神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

特殊治療では、眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸へのボツリヌス局所療法も行っています。脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

◆主疾患を含む治療方針と概要

・脳卒中

脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。年間200から250人、主に虚血性脳血管障害中心に担当。

毎日24時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。

・超急性期加療

脳梗塞発症4.5時間以内の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づきt-PAを用いた加療を行っており、脳外科とのチーム医療で必要例には、投与後血管内手術の併用療法を行っている。

・ボツリヌス局所療法

眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙性に対しての局所注射療法

短時間で、外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行。年間50人から70人ほど施行。

研修医にも研修中に資格取得してもらっております。

・変性疾患

代表的なパーキンソン病で毎年、新規診断例が10-15人ほど見つかり、50-60例が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け入れている。

・認知症

専門外来を設置し、病型診断、初期加療の開始を行い、在宅医療に向け地域医療機関と連携パスを作成中。

◆主疾患治療プロトコール

①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用

②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙性：ボツリヌス局所注射療法

③物忘れ外来：水曜日に専門外来、必要例に精査入院

④多発性硬化症へのインターフェロン導入コース

⑤γグロブリン大量療法(IVIg療法)

⑥他

- ・日本内科学会認定医 2 名・総合内科専門医1名・指導医 3 名
- ・日本神経学会専門医常勤 3 名・指導医 2 名
- ・日本脳卒中学会専門医 1 名
- ・日本臨床神経生理学会認定医 2 名
- ・日本脳卒中学会研修教育病院 指導医 1 名
- ・ボツリヌス施行有資格者 当科 3 名
- ・I T B 療法有資格者 当科 3 名
- ・日本神経学会教育施設

◆その他

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

➤ 外科

消化器癌・乳癌は各臓器の癌診療ガイドラインに準拠し治療を施行しています。早期消化管癌は消化器内科と内視鏡治療の適応を検討しています。

乳腺診療は、平成 28 年 4 月から三重大学乳腺外科から乳腺専門医が常勤として派遣される予定で、診療がより専門的になります。

消化器疾患に関して日本内視鏡外科学会・技術認定医を中心に腹腔鏡下手術を高頻度にご利用しています(食道癌、胃癌、大腸癌、胆嚢結石、虫垂炎、腸閉塞、鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニア)。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて原則通院で施行しており、術後補助化学療法のほか進行再発癌に対する QOL 改善、延命を目指す治療を行っています。院内では月 1 回の化学療法安全運営会議をもち、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を行い、安全管理システムと適切な支持療法のもとに実施されています。

緩和ケアは、緩和医療専門医の資格を有する外科医が中心となり緩和治療医、薬剤師、看護師、臨床心理士にて構成される緩和ケア・チームが週 2 回の外来と院内回診を行っています。

小児外科分野では週 1 回、三重大学医師により小児外科専門外来が開設されています。

救急分野では救命救急センターに外科専門医である日本救急医学会専門医が常勤しており、外科系患者の救急医療体制が整備されています。

疾患名	症例数
食道癌根治術	4
食道良性手術	2
胃十二指腸良性手術	18
胃十二指腸悪性手術	58
イレウスを除く小腸手術	29
イレウス手術	39
虫垂炎手術	64
大腸肛門悪性根治術	94
大腸良性手術	18
肛門良性手術	7
胆道良性手術	95
胆道悪性手術	5
肝切除術	7
膵良性手術	2
膵悪性腫瘍根治術	3
門脈、脾手術	2
乳癌根治術	35
乳腺良性手術	9
甲状腺手術	0
外傷手術	9
ヘルニア手術	104
その他	61
計	665

このうち腹腔鏡下手術は 334 例

◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間
乳癌手術	乳房切除又はリンパ節廓清を伴う手術	術後 7 日間
	乳腺部分切除かつセンチネルリンパ節生検	術翌日退院（2泊3日）

◆その他

外科が資格を有する当院の施設基準：

日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本乳癌学会専門医制度関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1. 心臓血管外科の診療内容

心臓とは人の胸の中にあり、収縮と拡張を規則正しく行うことで、血液を全身に送り続けている臓器です。心臓から送り出される血液によって、全身の臓器は酸素や栄養分を受け取ることができるのです。心臓から送り出される血液は酸素を十分含んだ血液(動脈血)で、動脈を通して全身の臓器に送られ、全身の細胞を養います。役目の終わった血液は静脈血として静脈を通して心臓に戻ってきます。血液にとって動脈は行き道、静脈は帰り道となります。心臓は、この血液を全身に送るために規則正しく、常に休むことなく動き続けます。1分間に約60-80回、1日におよそ10万回、1年では約4000万回、一生には約30億回も収縮と拡張を繰り返し、全身に血液を送り続けます。心臓は一回の収縮で約70ミリリットルの血液をおくりますので、一分間で約5リットル、一日で約7000リットルの血液を全身に送り続ける事になります。人が生まれてから、心臓は休むことなく血液を送り続け、血液の通り道である動脈と静脈は、この血液の流れを受け止め続けるわけです。この心臓と血管を含めて血液を全身に送る体のシステムを総称して「循環器」と言います。この様に常時大変な仕事をしている心臓と血管「循環器」ですので、機能障害が起こらない事のほうがむしろ不思議な事とさえ言えます。

最近よく耳にする「メタボリックシンドローム」という言葉をご存じの方は多いのではないかと思います。それは動脈硬化性疾患の危険性を高めるリスク症候群で、内臓脂肪蓄積に加え、脂質代謝異常(高脂血症)、高血圧、高血糖(糖尿病)を伴う病態です。いわゆる「生活習慣病」でもあり、主に生活習慣や環境・体質などによって症状もなく徐々に進んでいき、「動脈硬化」という血管の病気を通して、心臓や血管、すなわち循環器の大変な病気を引き起こしてしまいます。循環器は、人間のすべての臓器を養っている大切なシステムですので、循環器系に障害が出ることで、心臓だけでなく他の臓器例えば、脳や腎臓といった全身のあらゆる臓器の病気も引き起こしてしまう事も大きな問題とされています。循環器疾患は実に多様性に富んでおり、内科的治療のみでは対応できない病気も多い事がわかってきています。私たち、心臓血管外科ではその名の通り、心臓と血管の機能障害を外科的に治療することを専門としております。

私たちの心臓血管外科は、三重県立総合医療センターが開設された1994年10月に発足しました。循環器病の全身状態に最大限の配慮をした「体に優しい外科治療」をモットーに治療に当たっています。手術そのものが体に与える負担を医学用語で「手術侵襲」といいますが、私たちはこの手術侵襲を最小限に抑えた「低侵襲心臓手術」に取り組み、心臓から全身の血管(脳血管は除きます)まで広い範囲で診療を行っています。

病気に対する戦いは、病気に対する正しい理解から始まります。「心臓・血管がおかしいかな」と気になる方は、是非お気軽に当科までご相談ください。電子メールでのご相談や、いわゆるセカンドオピニオンに関したご相談にもお答えします。心臓血管外科・近藤宛で、当院に電子メールをお願いします、アドレスは sogohos@pref.mie.jp です。

私たち心臓血管外科は機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。高い安全性と洗練された質の高い心臓血管外科治療を推し進め、皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

2. 体に優しい心臓手術

従来の心臓手術といえば、人工心肺装置(人工の肺で血液を酸素化し、心臓の代わりにポンプで血液を全身に送り出す装置)を用いて、心臓を止めて行なうため、体や心臓に負担の大きい大変な手術というのが常識でした。心臓に病気を持っている人は、心臓をはじめ全身の臓器に機能障害をもっている事が多く、患者さん本人にとってはますます負担と危険性の高いいわゆる「命がけの手術」となっていました。当施設では、冠動脈バイパス手術におきましては、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「体に優しい低侵襲心臓手術＝オフポンプ手術」に 2002 年から取り組んできました。ご高齢のかたや脳梗塞・腎不全・糖尿病といった全身臓器の障害を持った患者さんにとっては特に有用な手術法です。

3. 冠動脈バイパス手術について

心臓を養っている冠動脈という血管が動脈硬化で細く狭くなると、十分な血液が心臓に行き届かなくなり、狭心症という病気を引き起こします。さらに冠動脈が詰まると心臓の筋肉が腐ってしまう心筋梗塞という病気を引き起こします。冠動脈バイパス手術は、この冠動脈が細く狭くなったり詰まったりした部位を飛び越えて、血液の新しい通り道をつける手術のことです。古くて痛んだ狭い道路はそのままにして、新しくバイパス道路を建設して、交通の便が良くなることと同じと考えていただければご理解いただけると思います。狭心症や心筋梗塞の患者さんに対して行う手術で、心臓の手術では最も多く行われている手術です。日本では年間に約 16000 人の人に行われています。

従来、心臓手術は人工の心臓や肺である人工心肺装置を使って、心臓を止めて行うのが常識でした。一方 2000 年頃より、心臓の表面の冠動脈に行うバイパス手術では、体に対する負担を軽減し安全性を向上させるため、人工心肺装置を使わず心臓も止めずに行う「心拍動下低侵襲冠動脈バイパス手術」が新しい手術法として登場してきました。人工心肺装置(ポンプ)を用いないためオフポンプ手術とも言います。この手術は「体にやさしく安全性が高い」と言う大きなメリットがある一方で、心臓を止めずに動かしたまま手術を行うため、質の高い結果を得るためには、高い手術スキルはもちろんのこと、麻酔を含め洗練された手術環境・チームワークが必要です。当科では 2002 年からこの「オフポンプ冠動脈バイパス」に取り組み、多くの実績をあげてきました。

当科では冠動脈バイパス術にはオフポンプ手術による完全血行再建を第一選択としております。体外循環を用いず、心臓も止めないため、手術による身体への負担が軽く、脳血管障害、呼吸機能障害、腎機能障害などの合併症を有する患者さんや、高齢者でも、より安全に術後合併症を起こすことなく手術が可能となっております。最近では手術適応患者さんの高齢化もあり、大動脈～頭頸部動脈の動脈硬化の強い患者さんが増え、術中脳梗塞合併の危険性が高くなっておりますが、オフポンプ手術を第一選択とした 2002 年 6 月から現在まで、術中脳梗塞はゼロを維持しております。また、自己血輸血(詳細は後述)のみで手術可能で、手術翌日から食事もでき、入院期間も短くなりました。2015 年 2 月までで、緊急手術も含めた全単独冠動脈バイパス術患者さんの 95.4%で、待機手術では 98.8%でオフポンプにて手術を行っております。

バイパスに用いるグラフトは、遠隔成績が良好である(長持ちする)内胸動脈を主に、多くの患者様に動脈グラフトを用いております。何らかの理由で動脈グラフトが用いられない場合は静脈グラフトを用いております。しかし最近では重症例が多く(年々増加傾向にあります)、静脈グラフトを用いる場合も増加しているのが現状です。

4. 心臓弁膜症の手術について

心臓は4つの部屋、左心房・左心室・右心房・右心室を持っています。左右の心室は血液を勢いよく送り出すために、入口と出口には弁と呼ばれるものがついており、血液の流れが一方向に進み、戻ってこないようにする働きがあります。この弁の機能に障害を来した状態を弁膜症といいます。具体的には弁がきちんと閉まらなくて、血液が逆流してしまう「閉鎖不全症」と、弁の開きが悪くなり血液の通りが悪くなる「狭窄症」があります。中でも全身に血液を送り出す左心室の入口と出口にある弁、それぞれ僧帽弁、大動脈弁と言いますが、これらの機能障害がひどくなった場合には手術が必要となります。この弁膜症に対して、私たちは、弁病変の形や心臓の機能・患者さんの状態に応じて、一人一人の患者さんに最も適切な手術法を選択し提供いたします。

僧帽弁疾患では、自己弁を温存する形成術を第一選択とし、さらに心房細動を有する患者さんでは、積極的に不整脈手術(MAZE 手術)を追加し、抗凝固不要を目指しております。そして飲み薬をできる限り少なくし、手術後の生活のレベルアップを図っています。

大動脈弁疾患では、人工弁置換術が基本となります。術後抗凝固が不要な生体弁を用いるか、半永久的な耐久の機械弁を用いるかは、患者さんの年齢、合併疾患の有無等を考慮し、患者さんと相談の上決定しております。

5. 大動脈疾患の手術について

大動脈とは全身へ血液を送る最も太い動脈です。心臓から出て頭の方へ向かい、胸の上部でUターンして胸の中を下半身へ向かって走行します。そして、横隔膜を貫通しお腹にはいり、お臍(へそ)の下あたりで左右の脚(あし)に向かうように分岐します。

手術が必要になる大動脈の病気の中で、最も多いのが大動脈瘤です。大動脈瘤とは読んで字の如く大動脈が「瘤(こぶ)」状に徐々に膨らむ病気です。これは、動脈硬化+高血圧症が主な原因です。動脈硬化を促進する因子=高血圧症、糖尿病、高脂血症(高コレステロール血症)、喫煙、肥満等をお持ちの方は、持っていない人に比べ、大動脈瘤になる危険性が高くなります。

多くは無症状で、いつの間にか大きくなり、他の疾患の精査で偶然発見されることが多いです。腹部大動脈瘤の場合は、お腹を触った時に、偶然に脈を打っている腫瘍として発見されることもあります。なかには、ご自身で拍動する腫瘍として自覚していても、痛くも何ともないので放置していて、たまたま医師に相談して発見されるというケースもあります。

また、肥満の方(お腹がぽっちゃりしている方)では大きくなっていても、触診で全く拍動がわからないことも多いです。胸部大動脈瘤は外から触ってわかることはありません。

大動脈瘤が破裂するような大きさになるのには数年以上かかりますが、症状が出ないため見つけにくいという難点があります。つまり、破裂しない限りはっきりとした症状は認めません。しかし、一旦、破裂すると痛みと同時に体内に大出血を起こすため、出血性ショックとなります。破裂した場合は、救急車で病院にたどり着く前に絶命する可能性が高い病気です。

手術は大動脈瘤を切除し人工血管に置き換える(置換する)人工血管置換術が一般的で確実です。最近では大動脈瘤のある部位の大動脈内にカテーテルを用いてステントグラフトというパイプを留置し、膨らんだ部位への血流を遮断して破裂を防ぐ治療法もあります。しかし、大動脈瘤の位置や形態で適応される症例は限られます。また腹部大動脈瘤では手

術自体が危険と考えられる高齢者や重い合併疾患のある方が基本的な適応となります。確実に耐久性に優れているのは手術による人工血管置換です。尚、現時点ではステント治療は限られた施設でしか行えず、当院では行えませんので、適応症例は関連施設へ紹介しております。

動脈硬化が原因で起こる大動脈瘤症例では、全身の他の動脈にも病変がある場合が少なくありません。脳梗塞の原因となる脳動脈硬化症・頸動脈狭窄症、心臓を養う冠動脈の硬化が原因の心筋梗塞・狭心症、下肢の血行障害となる閉塞性動脈硬化症などを合併します。当院では大動脈瘤の待機手術の患者様全例に、上記合併疾患の有無とその治療の必要性を評価し、安全な手術治療が行えるようにしております。実際、胸部大動脈瘤手術と冠動脈バイパス術を同時に行った患者さんや、冠動脈バイパス術を行ってから腹部大動脈瘤の手術や下肢の血行再建術を行った患者さんも多数おみえです。

急性大動脈解離や大動脈瘤破裂では、救命には手術治療が不可避であり、可能な限り緊急対応しております。

6. 末梢動脈疾患の手術について

下肢の血行障害に対する手術を行っています。最も多い病気は、両脚へ血液を送る動脈が動脈硬化で徐々に狭くなり、ひどい場合は詰まってしまい、下肢への血流が不十分になる病気で、閉塞性動脈硬化症と言います。足が冷える、歩くとふくらはぎが張って痛くなり、休まないと歩けないという症状(間欠性跛行と言います)が典型的です。さらにひどくなると足先が壊死に陥る場合もあります。喫煙は症状を悪化させる大きな要因で、まずは禁煙することが重要です。

手術は血行再建術で、自家静脈グラフトまたは人工血管を用いてのバイパス術を行います。血行障害がなくなると、足は温かくなり、歩行障害もなくなります。

7. 静脈疾患(下肢静脈瘤)の手術について

静脈は体の端から心臓に血液が戻る帰り道です。人が立った状態では、下肢の静脈血は重力に反して上へ上へと流れなければなりません。そのため静脈には逆流しないように弁が付いていますが、この弁が壊れてしまい、静脈血がうっ滞して下肢の静脈が腫れる病気を下肢静脈瘤と言います。特に立ち仕事をしている方では、時間が経つにつれ(夕方になると)脚がだるくなり、むくみがひどくなり、痛みを伴うこともあります。ひどい場合はうっ血により足首近くに色素沈着や潰瘍形成を来す場合もあります。

軽症の場合は弾力ストッキング着用をお勧めしております。当科外来では脚のサイズ(太さ)を測定し、ストッキングの適切なサイズの指導をしております。

中等症以上の方や見た目が軽症の方でも症状が強い方は外科治療を勧めております。女性の場合、美容的な観点から治療を希望される場合もあります。

いわゆる手術は原因となる静脈の抜去術が基本術式でありましたが、レーザー焼灼術が健康保険適応となり、現在はレーザー治療が主流となってきております。同治療では局所麻酔による日帰り治療も可能となりました。しかし、残念ながら当院では専用のレーザー治療機器がありませんので、関連施設に紹介させていただいております。

8. 無輸血手術について

予定手術の場合、患者さん自身の血液を前もって採取して病院内に貯めておき、手術の

時の輸血は自分の血液でまかなうという「自己血輸血」を積極的に行っております。この自己血輸血は、他人の血液を輸血することに伴う合併症や副作用を防ぐ意味で、非常に有効な輸血方法です。冠動脈バイパス術や弁膜症の手術では原則として800mlの自己血を貯めて手術に臨み、その結果、他の人からの輸血を受けることなく退院していただいております。現在、自己血を前もって採取可能であった患者様の多くの方で、自己血輸血のみで経過しております。

以上、私たち心臓血管外科は、機能を再建する外科で、術前より良い状態にすることを目的として取り組んでおります。地域の皆様の日常生活のレベルアップに貢献できるように努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆ 入院手術症例の概要（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

疾患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
虚血性心疾患	23	20.4	(15.0)
弁膜症・先天性心疾患等	19	23.9	(18.6)
大動脈疾患(胸部)	13	24.6	(22.2)
大動脈疾患(腹部)	13	18.7	(15.6)
末梢動脈疾患	16	9.7	(7.4)

術後入院日数は糖尿病などの持病や合併症の治療も含めた日数です。ちなみに虚血性心疾患で術後の心臓カテーテルを済ませて外科的治療が終了し、退院可能な状態となった術後日数は平均14.5日でありました。

◆ 主疾患の治療成績（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

- 1) 単独冠動脈バイパス術：21例
 - ・ off pump 手術：21例 (100%)
 - ・ on pump 手術：0例
 - ・ 平均バイパス本数：2.91本/人
 - ・ 緊急手術：4例
 - ・ グラフト開存率：95.1%
 - ・ 入院死亡：0例
- 2) 大動脈瘤手術：26例
 - ・ 胸部：13例 (急性解離8)
 - 入院死亡：5例 (急性解離3)
 - ・ 腹部：13例 (破裂4)
 - 入院死亡：1例 (破裂1)

私たちの呼吸器外科は、三重県立総合医療センターが開設された 1994 年 10 月に発足しました。当科では、肺癌、気胸、炎症性肺疾患、膿胸、悪性中皮腫、縦隔腫瘍、手掌多汗症、胸部外傷等、呼吸器外科全般にわたる手術を行っています。

これらの中で、最も多く行われる肺癌の手術は、日本では 1 年間に約 26000 人に行われています。肺癌の標準手術は病巣のある肺葉（人間の肺は、右は 3 つの肺葉、左は 2 つの肺葉に分かれています）と病巣の転移経路であるリンパ節を切除することです。手術のアプローチ方法には開胸手術と胸腔鏡手術があります。開胸手術の利点は直視下に質の高い手術が行えることにありますが、傷がやや大きくなるという欠点があります。また、開胸器にて肋骨と肋骨の間を開大するため痛みも大きくなります。胸腔鏡手術は傷が小さく痛みが少ない利点がある半面、出血した場合の対処が不十分といった欠点を指摘されています。当科では癌の根治性と手術の安全性を確保するために、12cm 前後の皮膚切開で行う開胸手術を標準術式としてきましたが、胸腔鏡手技の習熟に伴い 2009 年から創のサイズを縮小。5～10cm の小切開と胸腔鏡を併用したいわゆる胸腔鏡補助下手術 (Hybrid 手術) を開始しました。

一方で、近年、CT 等の画像診断装置の進歩により肺の末梢に存在する小さい肺癌が発見される頻度が増加してきました。これらの末梢小型肺癌に対しては肺の切除範囲を小さくしても（区域切除：癌病巣を肺葉がさらに細かく区画された区域単位で切除する）予後が変わらないという報告がみられるようになってきました。肺の切除範囲が少なければ少ないほど呼吸機能が温存されるため、当科でも 2cm 以下の末梢小型肺癌に対しては、患者さんの同意を得たうえで区域切除を積極的に行っております。

気胸の手術は、日本では 1 年間に約 12,000 人に行われています。当科では胸腔鏡手術により痛みを和らげ早期の社会復帰ができるように努めております。

炎症性肺疾患、膿胸等に対する手術は、患者さんの QOL（生活の質）が保てるような手術を行うよう努めています。

前述の如く当科では、呼吸器外科のあらゆる疾患に対する手術に対応しています。総合病院の特徴を最大限に利用し、他科との協力のもと、進行肺癌に対する拡大手術や合併症を有する患者さんに対する手術も積極的に行っています。さらに呼吸器内科と密に連携して初診から手術までの期間を短縮するよう努め、肺癌や悪性中皮腫に対する集学的治療（手術、化学療法＝抗癌剤治療、放射線治療等を併用して行う治療）も積極的に行っています。

以上、私たち呼吸器外科は、地域の皆様の健康に貢献できますよう努力いたしますので、お気軽にご相談下さい。

◆ 入院手術症例の概要（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

患名	例数	平均入院期間(術後入院日数)	
肺癌（原発性＋転移性）	50	9.5	(7.3)
肺癌・気胸以外の呼吸器疾患	34	19.5	(12.8)
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	5	9.2	(6.8)
気胸	25	13.2	(6.0)

◆ 主疾患の治療成績（平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日）

- 1) 原発性肺癌手術：42 例
 - ・胸腔鏡下手術：38 例（90.5%）
 - ・治癒切除：37 例（88.1%）
 - ・非治癒切除：5 例（11.9%）
 - ・入院死亡：0 例（0.0%）
- 2) 他の呼吸器外科疾患手術：72 例
 - ・入院死亡：0 例

➤ 脳神経外科

頭部外傷、脳血管障害などの救急疾患に対する迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や頸椎、腰椎の変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靱帯骨化症）を中心に治療を行っています。

最近では、虚血性脳血管障害（脳梗塞）の患者に対する、t-PA の急性期静脈投与による治療や、血行再建術などの積極的な治療が増えてきています。また、専門外来として「脊椎・脊髄外来」を開いており、外傷も含めた脊椎、脊髄疾患の手術症例が増えていきます。

◆入院疾患の概要

症例・手術	件数
手術総数	243 件
脳動脈瘤	17 件
脳腫瘍	14 件
脊椎脊髄	92 件

◆その他

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。

高齢者の方に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっています。

地域周産期母子医療センターの指定を受け、北勢地区基幹病院としての小児医療を目指しております。また、小児科医師数は北勢地区の病院の小児科では最大人数を確保しています。

以下に各部門の概略を記し、皆様方のご批判、ご教示を賜りながら公立病院として、地域医療のみならず、三重県全県にわたる小児医療に貢献すべく精進します。

◆ **周産期母子センター（3階東病棟）**

本院開院時に、県内で初めてNICU（未熟児新生児集中治療室）の認可を受け、多くの未熟児および病的新生児の診療が行われています。退院後のフォローは未熟児新生児専門外来にて発達のフォローを行っております。昨年より周産期棟の増改築を行い、現在NICU 6床、GCU 12床の計18床にて運用しており、需要に応じ9床+18床までの増床が可能です。

◆ **小児科病棟（3階西病棟）**

感染症等の一般小児疾患に加え、精査を必要とする各種疾患に対応しております。重篤な急性疾患については当院に設置されている救命救急センターと連携をとり集中治療を行います。また、特殊疾患にて精査を要する患者さんについては、県内外の各分野の専門医と連携を取りながら診断治療を行います。

◆ **外来診療**

一般の急性期疾患等に加え、心疾患、神経疾患（てんかん等）、アレルギー疾患、内分泌疾患等の専門性の高い疾患については、一般外来とは区別して院外からの専門医の協力を受け、専門外来を開設しております。

◆ **救急外来**

当院は、本来2次、3次救急を担うべき施設ではありますが、小児救急の特殊性、必要性を考慮して対応しております。

特に、紹介いただいた患児の場合は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

◆ **平成27年診療実績**

一般小児科病棟入院患者数：1,325人

一般小児科外来患者数：12,585人

時間外、救急外来患者数：2,414人

NICU+GCUの入院患者数：262人

うち超低出生体重児：5人

極低出生体重児：8人

➤ 産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、三重県がん診療連携拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

◆入院疾患の概要

疾 患 名	事 例 数	備 考
産科手術	182 例	帝王切開 148 例、頸管縫縮 5 例、流産ほか 29 例
ハイリスク分娩	83 例	全分娩数 345 例 母体搬送 24 例
婦人科手術	641 例	腹腔鏡手術 409 例、子宮鏡 69 例を含む
腹腔鏡手術	409 例	
全手術件数	924 例	

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績

子宮頸部悪性腫瘍	34 例（上皮内癌、腹腔鏡手術を含む）
子宮体部悪性腫瘍	31 例（開腹手術 11 例、先進医療：腹腔鏡手術 20 例）
卵巣悪性腫瘍	26 例（開腹 22 例 腹腔鏡 4 例）
その他婦人科悪性腫瘍	5 例（肉腫 3 例 卵管癌 1 例 腹膜癌 5 例、外陰癌 1 例）

◆手術実績

腹式単純子宮全摘術	38 例	腹式良性卵巣腫瘍手術	21 例
腹式子宮筋腫核出術	2 例	腹式悪性卵巣腫瘍手術	22 例
腔式単純子宮全摘術	13 例	子宮外妊娠手術（開腹 腹腔鏡）	5 例 4 例
広汎子宮全摘術	12 例	円錐切除術	55 例
腹腔鏡手術	409 例	子宮鏡下手術	82 例

◆主疾患治療プロトコール（クリパスを含む。）

婦人科癌：化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、外来化学療法を積極的に行っています。

：放射線治療 子宮頸癌を中心に行っています。

腹腔鏡手術 平成 19 年から婦人科疾患の腹腔鏡手術を積極的に行っています。

◆その他

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行います。

平成 27 年からは先進医療（腹腔鏡下子宮頸癌根治手術）を実施できるようになりました。

平成 25 年 4 月から NICU（新生児）棟が完工・オープンしました。また、MFICU を平成 26 年に開設しました。

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しています。

◆治療の実際

骨折

骨折の状態により種々最新の手術方法を積極的に採用し、早期社会復帰を目指しております。また、患者さんの希望によっては、治療効果に影響のない範囲で、保存的治療や外来での手術も行っております。

変形性関節症

高齢化社会に伴い、変形性関節症は増加傾向にあります。当院では、専用の無菌室（クリーンルーム）での人工関節手術（年間 105 例）や人工関節を用いない骨切り術（年間 13 例）を中心に組み合わせており、安定した治療成績を得ております。また、関節鏡視下手術も低侵襲のため積極的に行っております。

スポーツ外科

膝の十字靭帯損傷、半月板損傷、反復性肩関節脱臼、足関節の靭帯損傷等に積極的に治療を行い、スポーツへの復帰に取り組んでおります。関節鏡視下および併用手術は年間 270 例、自家腱移植による靭帯形成術、関節授動術は、年間 32 例となっております。

軟骨損傷

軟骨損傷に対しては関節鏡下自家骨軟骨柱移植術（年間 14 例）や microfracture 法を積極的に行ってまいりましたが、平成 25 年 8 月に他施設に先がけ、保健医療での培養軟骨移植術の三重県最初の施設認定を受け、再生医療を開始致しました。平成 27 年は 4 例となっております。通算 12 例は現在症例数全国 4 位です。これにより損傷の面積や深度に応じたそれぞれの患者さんに最適な治療法を選択することが可能になりました。

◆主疾患治療プロトコール

人工股関節置換術：術後 4～6 週間にて退院

人工膝関節置換術：術後 3 週間にて退院

単顆置換型人工膝関節置換術：術後 2 週間にて退院

大腿骨頸部骨折：術後 2 週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転院

半月板切除術：最短で 3 泊 4 日にて退院（6 泊 7 日もあり）

前十字靭帯再建術：術後 2 週間にて退院

◆その他

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行っておりますが、症状によってはより専門性の高い医療機関を紹介させていただいております。

当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先で診察を行っております。

また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方にご紹介申し上げております。

➤ 皮膚科

現在、皮膚科専門医1名が診療を行っています。外来は、月曜日は、大学よりの非常勤医師が、火から金曜日は常勤医師が診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、ヤケドなどの創傷処置、イボや腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している褥瘡の治療、予防ケアなどにも力を入れています。

◆入院疾患の概要

疾患名	事例数	備考
带状疱疹	9	
蜂窩織炎	8	
湿疹・皮膚炎	5	
水疱症	4	
熱傷	3	
褥瘡	10	
その他	5	

入院患者 44 件／年

◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績

外科的処置・治療領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 173 件/年（皮膚生検・外来小手術 107 件、手術室手術 66 件）

表皮嚢腫 48 件、母斑 15 件、疣贅 14 件、脂肪腫 5 件、線維腫 8 件、皮膚癌（上皮内癌）12 件など

◆主疾患治療プロトコール

皮膚感染症の入院治療

带状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7 日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～10 日間

褥瘡パス入院 10～20 日間など

当科では主として尿路性器悪性腫瘍(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌など)の診断・治療を中心に行っております。治療としては手術のみならず、放射線療法や抗癌剤を使用した全身化学療法なども積極的に行っております。その他、前立腺肥大症・尿失禁などの女性泌尿器疾患・神経泌尿器疾患も増加しており、適宜対応しています。なお、下部尿路結石(膀胱・尿道結石)は当院にても治療可能ですが、上部尿路結石(腎・尿管結石)の結石破砕術に関しては、四日市羽津医療センター泌尿器科と連携し、治療を行っています。

◆入院疾患の概要

疾患名	手術名	H7-26年の件数	H27年の件数
前立腺癌	根治的前立腺摘出術	99例	4例
膀胱癌	膀胱全摘術、尿路変向術	78例	3例
膀胱癌	経尿道的膀胱腫瘍切除術	878例	71例
腎癌	根治的腎摘出術/部分切除術	103例	2例
腎盂癌・尿管癌	腎尿管全摘術	69例	3例
精巣癌	高位精巣摘出術	52例	3例

また、前立腺肥大症や膀胱癌に対する経尿道的前立腺切除術や経尿道的膀胱腫瘍切除術などの内視鏡的治療法である経尿道的切除術(TUR: transurethral resection)では電解質溶液下で良好な切開性能が得られる TURis (TUR in saline)システムを採用し、良好な成績を得ております。

◆主疾患治療プロトコール(クリニカルパスを含む)

症例数の多い経直腸的前立腺針生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術をはじめ、各入院検査・手術ではクリニカルパスを用いています。また、疾患別標準資料・説明書を作成し、患者さんの説明に用いています。

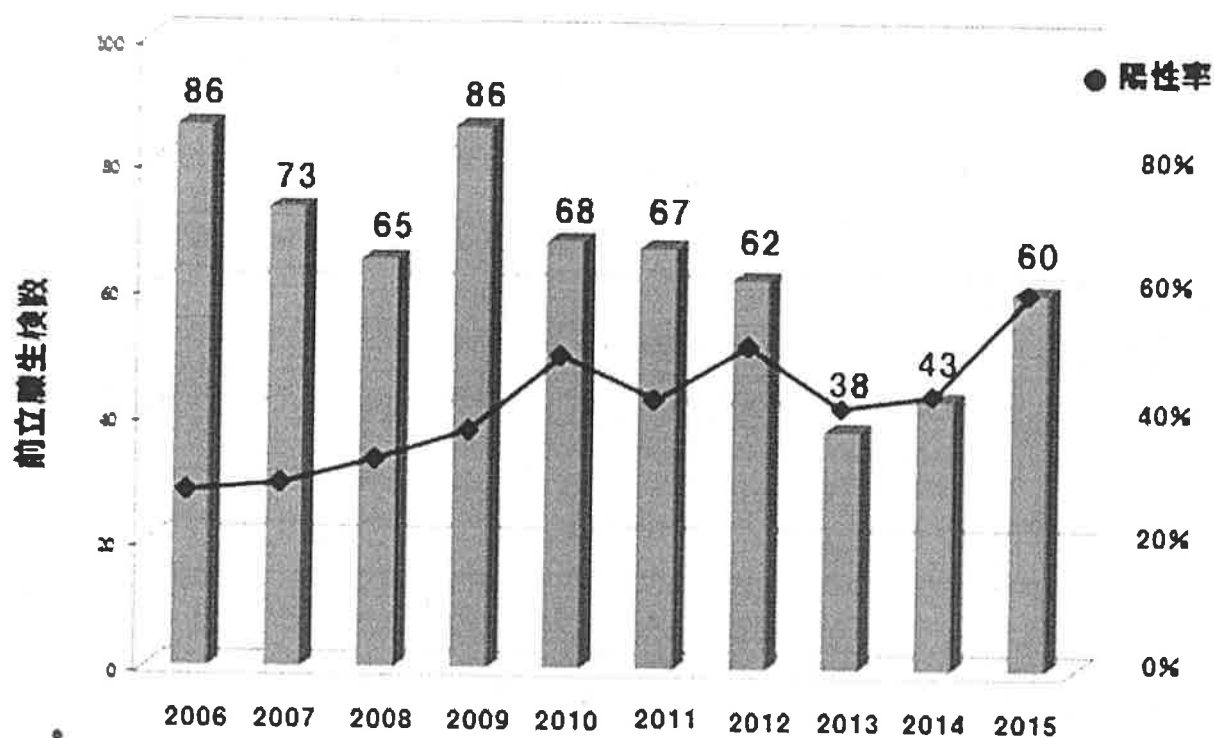
一方、悪性疾患(癌)に対する化学療法も積極的に行っております。腎細胞癌においては分子標的薬による治療を導入しており、進行膀胱癌(尿路上皮癌)の全身化学療法としてはジェムシタビンやタキサン系抗癌剤を中心とした化学療法が標準的治療となっており、種々の化学療法を行っています。少量の抗癌剤を併用した化学放射線療法も行っています。また、内分泌療法抵抗性となった去勢抵抗性前立腺癌でもタキサン系抗癌剤を用いた化学療法を積極的に行っております。

前立腺癌を診断する経直腸的前立腺生検は前立腺体積にもよりますが、初回生検であれば少なくとも10ヶ所以上の多数ヶ所生検を1泊2日の入院で行っています。

◆その他

当科では患者さんとの十分な説明と話し合い・相談の上で、治療法の選択を行い、患者さんに満足を頂ける最善の治療を行うことを目指しております。

前立腺生検件数の年別推移



平成25年1月から、当センター眼科の外来診療を開始しました。月曜日から金曜日までの午前の一般診療、月、水、木、金曜日の午後の予約診療を行なっております。平成26年1月からは最新のパターンスキャンレーザー装置を導入します。

角結膜疾患：点眼治療のみでなく、塗抹鏡検・培養・血清点眼等の特殊検査および治療にも対応します。

緑内障：光干渉断層計（OCT）と精密視野検査による綿密な病期判定を行なったうえで点眼薬・内服薬・レーザーによる治療を行ないます。

糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患・網膜裂孔：レーザー治療を中心に対応します。

ブドウ膜炎・視神経炎：点眼、内服治療が主ですが、入院による薬剤点滴治療にも対応します。

平成25年7月1日、日本眼科学会専門医制度研修施設の認定を受けました。

➤ 精神科

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。

診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。

なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

◆平成27年診療実績

外来延患者数	3,584人
一日平均外来患者数	14.8人

➤ 放射線診断科

放射線診断科は、内科系診療科、外科系診療科、救急などすべての診療科から依頼を受けて、CT、MRI、血管造影、IVR (interventional Radiology)、核医学検査の施行と画像診断を行っています。そして、各診療科のカンファレンス等に参加し、密接な連携の元に診療を行っています。

また、四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの検査および画像診断を行っています。

➤ 放射線治療科

診療方針 (特徴) : 放射線治療は、機能や形態を残すことが可能な治療法です。一般的に、必要な放射線を数回から数十回に分けて、数週間かけて照射します。このため、年配者でも比較的楽に受けて頂ける治療法です。また、治癒を目的にした治療ではなく、がんによる症状の緩和についても とても優れた方法です。

当院では通常の直線加速器 (リニアック) を使用した放射線治療を行っています。当院で不可能な放射線治療 (IMRT、定位照射、小線源治療等) が必要な場合は他の病院に紹介しています。

当科での入院は行っていないため、外来での照射ができない疾患の場合には、担当科と相談し治療を行っています。毎週月曜日と木曜日に予約外来を行っており、あらかじめ連絡の上、受診していただいています。

◆入院疾患の概要 (当科は入院病床を持っていません)

◆主疾患 (悪性疾患) を含む治癒成績

1 放射線治療患者の内訳 (平成 27 年)

新規登録患者数	129 例 (新規患者数)	145 例 (治療患者総数)
治癒目的の照射	20 例	21 例
緩和的照射	32 例	46 例
術後照射	70 例	71 例
術前照射	7 例	7 例

2 疾患 (部位) 別症例数

脳	頭頸部	肺	乳腺	食道	肝・胃	大腸・直腸	腎膀胱	婦人科	骨軟部	不明
5 例	0 例	28 例	56 例	6 例	3 例	7 例	7 例	15 例	0 例	1 例
4%	0%	22%	44%	5%	2%	5%	5%	12%	0%	1%

当院の放射線治療は、乳癌・肺癌・子宮癌で全体の約 78% を占めます。肺癌では呼吸器科主導で化学療法を併用した放射線治療が行われています。乳癌では、乳房温存術後の照射が多くなっています。

➤ 麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

◆平成27年診療実績

手術症例数

全手術症例数：3,042件

うち麻酔科管理症例数：1,848件

麻酔法	件数
全身麻酔	885
全身麻酔+硬膜外麻酔	750
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	213
緊急手術	288

◆その他

全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安全に手術を受けることが出来るよう努力しています。

耳鼻咽喉科では平成 26 年 9 月より常勤耳鼻咽喉科専門医 1 名が診療を行っています。外来診察は月曜日から金曜日までで、耳鼻咽喉科に関する全般的な診療を行っています。

頭頸部外科疾患に関しては、診断を重視し、CT,MRI,頸部エコーに加え、甲状腺 FNA 検査等を行っております。全身麻酔下の手術加療については、現在対応しておりません。

近年高齢化社会により増加している嚥下困難に対しては、院内嚥下チームと連携し、嚥下ファイバー検査を行っております。

常勤医師は日本アレルギー学会専門医にも認定されており、鼻粘膜レーザー焼灼術、舌下免疫療法（スギ、ダニ）等、アレルギー疾患に対し積極的な加療を行っております。

◆平成 27 年診療実績

術式・検査	件数
鼻腔粘膜レーザー焼灼術	31 例
鼻腔粘膜焼灼術（鼻出血）	18 例
鼻骨骨折整復術	6 例
甲状腺細胞診	40 例
嚥下ファイバー検査	32 例

(2) 看護部

◆ 看護部の理念

気づき (feel)・対話 (communication)・協働 (collaboration)・笑顔 (smile)

気づき：患者さんの思いを感じ、察して

対 話：対話（聴く・伝える）を大切に

協 働：他職種や地域の医療機関などの法と協働し安心・安全なチーム医療を実現
することで

笑 顔：笑顔あふれる職場を創り、患者さん・地域の皆様も自然に笑顔になえるよ
うな看護を目指します。

◆ 平成 27 年度看護部目標

1. 指さし呼称を習慣づけ安心・安全な医療・看護を提供します
2. チーム医療を推進し、ベッドサイドケアにつなげます
3. 適切なコスト管理と経費削減に努めます
4. (改訂版) キャリアラダーの運用を通じて、自己の能力開発に努めます
5. 多様な働き方を認め合い、それぞれの役割を果たします

◆ 平成 27 年度看護部実践報告

1. 看護職員の確保

1) 就職説明会

(1) 院内就職説明会の開催 (5 月、6 月、7 月) 63 名参加

(2) 外部の説明会への参加

- ・ 県立看護大学就職説明会 (5 月)・オープンキャンパス (7 月)
- ・ ナース専科主催 合同説明会名古屋 (2 月) 14 名参加
- ・ ディスコ主催 看護ナビフォーラム名古屋 (2 月) 17 名参加
- ・ ナース専科主催 合同説明会名古屋 (4 月) 17 名参加
- ・ ディスコ主催 看護ナビフォーラム津 (5 月) 28 名参加

2) 看護大学・学校訪問

(1) 実習校 5 校訪問

(2) 県内高校、県外大学訪問

- ・ 総務課担当 県内高校 17 校

(3) 出前授業

- ・ 四日市市立農芸高校 (6 月) 11 名参加
- ・ メリノール女子学院中学生 (3 月) 30 名参加

3) 広報活動

- ・ 就職説明会、採用試験、インターンシップポスター作成
- ・ ナース専科、ディスコの Web (就職ナビ) 登録
- ・ ホームページの画面の適宜更新
- ・ 修学資金案内 (2 月県内外 95 校)
- ・ 就職説明会案内 (3 月 131 人)

- ・年賀状郵送 (12月)
 - ・DVD作成
- 4) インターンシップ開催 (6月、7月、8月、12月、3月) 51名参加

5) 採用試験

- ・定期試験2回 (7月、8月) + 随時試験3回

6) 採用内定者への対応

- ・国家試験対策10月 31名参加
- ・国家試験応援メッセージカード、年賀状郵送
- ・内定者の集い「4月採用者向けオリエンテーション」(3月)

7) 実習環境の充実

- ・実習指導者の育成
三重県看護協会実習指導者講習会に1名が参加し修了
千葉大学看護教育指導者研修に1名が参加し終了
三重県専任教員養成講習会に1名が参加し終了
- ・実習施設としての体制づくり
実習環境の整備、院内における実習指導者の育成を検討する委員会に、
三重県立看護大学の中西教授を迎え、意見交換を行うとともに助言をいただきながら整備を行った。

2. 職場環境の改善と活性化

1) 変則3交代勤務の定着 (平成26年4月1日)

- ・ガイドラインに沿った看護管理マニュアルの変更
- ・サーガディアンリズムを考慮した長日勤の翌日勤務の取組み

2) WLB委員会の取り組みについて

- ・新人研修での制度説明会の実施 (4月)
- ・産休育休者のための交流会実施 (11月)
- ・キャリアの窓口設置3件/年

3) 看護支援室の活動

●新人看護職員技術等の支援

H27年度 ひよっこクラブ出席状況

	4月 10日	4月 14日	4月 17日	4月 24日	5月 7日	5月 12日	5月 21日	5月 22日	6月 4日	6月 19日
合計	24	30	15	10+	11	中止	2	16	5	4

ひよっこクラブ実施技術内容

研修実施日	実 施 技 術 内 容
4 月 10 日	採血
4 月 14 日	採血
4 月 17 日	採血
4 月 24 日	採血
5 月 7 日	採血
5 月 12 日	台風のため中止
5 月 21 日	導尿
5 月 22 日	採血・血培
6 月 4 日	輸液ポンプ・シリンジポンプの使い方、ヘパリンロック、三方活栓の使い方
6 月 5 日	末梢血管確保

4) 業務改善活動

(1) TQM活動

・院内TQM発表会 15 題 内、看護部 14 題

(2) 活動報告会を行い、各セクション、委員会、認定看護師の活動内容を共有した。

3. 人材育成

1) B S Cシートを活用した目標管理

看護部の目標を実現するために、どのような取組みが効果的か作戦を練り、部署全体で理解・共通させる道具（B S Cシート）を用いている。

院長シートに基づいて看護部長シートを作成。看護部長シートに基づき、看護師長、認定看護師がそれぞれB S Cシートを、スタッフは師長のB S Cシートに基づき私の目標シートを作成した。進捗管理を行いながら、看護部長と看護師長・副師長の部署面談や、看護師長・副師長と看護師の個人面談を年3回行った。

年度末には、師長によるB S Cの取組結果の報告会を実施している。

2) キャリアラダーによる教育

(1) 平成 27 年度より修正版のキャリアラダーの活用を開始した。

- ・ラダーとして、ステップN（新人）・I・II・III・IV・スペシャリストに分類。
- ・助産師については、日本看護協会の助産師のクリニカルラダーに沿ったラダーを作成し、運用を開始した。

(2) ラダー研修

- ・実践能力項目を、実践、管理、教育、研究、対人関係とし、ステップのステップ別教育として、段階的に研修を企画・開催した。
- ・業務に必要な研修、指導者育成研修、専門コース研修を企画・開催した。

(3) 新人看護師育成研修

新人看護職員研修要綱を見直し検討しながら、フォローアップ研修では演習を多く取り入れた。多重課題シミュレーションやローテーション研修を行い、実践的な研修を

行った。

(4) 看護師長・副師長にはマネジメントラダーを作成し、運用を開始した。

- ・ 新任師長、副師長研修として、年間 5 回の管理研修を行った。
- ・ 師長・副師長対象合同研修を 6 回、師長対象研修を 1 回、副師長対象研修を 1 回開催した。
- ・ 三重県看護協会のファーストレベル研修を 2 名が、セカンドレベル研修を 1 名が受講し修了した。

(5) その他

- ・ 看護研究は遠隔配信授業を年間 8 回受信し、看護研究の基礎的な学習を行った。
- ・ 院内研修のみならず、三重県看護協会や病院連携協議会他の研修も活用している。

3) 地域医療への貢献

研修名	参加人数
看護研究遠隔授業：7 回開催	175
がん化学療法サポーターシップケア：11 回開催	156
健康講座（遠隔配信）2 回開催	32
地域（海山道）での「脳卒中にならないために」研修会	20
塩浜中学校（中 2 対象）での「命の大切さについて」研修会	52
合計	435

4) 学生実習の受け入れ

(1) 看護学生実習受け入れ状況（延べ人数）

学校名	人数
三重県立看護大学（大学院含む）	1525
四日市看護医療大学（大学院含む）	453
三重県立桑名高校専攻科	580
四日市医師会看護専門学校	1324
聖十字看護専門学校	70
弥富看護専門学校	30
その他（看護協会など）	74
合計	4066

(2) 高校生一日看護師体験受け入れ

① 三重県健康福祉部・看護協会主催

日時：7 月 30 日 8：30～16：00

対象：四日市市内 4 高校、25 人の高校生（1～3 学年）

内容：バイタルサイン測定、清潔援助、沐浴、授乳、オムツ交換、散歩、院内見学等

② 三重県内高校生の看護体験受け入れ

日時：8 月 14 日 9：00～12：00

対象：3人の高校生（1～3学年）

内容：バイタルサイン測定、手浴、一時救命処置、AEDの使用方法、先輩看護師へのインタビュー等

③川越高校生徒の看護体験受け入れ

日時：8月13日9：00～12：00

対象：川越高校、7人の高校生（1～3学年）

内容：バイタルサイン測定、手浴、一時救命処置、AEDの使用方法、先輩看護師へのインタビュー等

(3)中学生の職場体験受け入れ

6月、9月、10月に各3日間、四日市市立笹川中学、西笹川中学、塩浜中学から中学2年生各3人を受け入れた。内容は、AEDの使い方、バイタルサイン測定、清潔援助、移送介助、院内見学等

(4)養護教諭学科の学生受け入れ

1月～2月に名古屋学芸大学の2名を受け入れた。外来、病棟、内視鏡室、救急外来などでの見学や実習等

(3) 中央放射線部

【平成27年 総患者数】

2015年度（平成27年度）	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均/月	集計
一般撮影（含ポータブル）	3,298	3,227	3,235	3,201	2,918	2,898	3,032	3,018	3,210	3,038	3,115	3,261	3,120.92	37,451
透視	154	140	181	165	167	128	143	148	141	136	137	158	149.83	1,798
血管造影 心臓	57	40	57	35	34	48	55	52	53	51	48	52	48.50	582
頭腹部	10	7	12	11	11	13	14	9	9	14	25	14	12.42	149
放射線治療 新規	9	18	16	14	15	14	16	12	1	25	15	19	14.50	174
照射数	270	261	473	423	299	344	368	294	169	279	464	430	339.50	4,074
（LG）	10	20	19	17	17	17	21	14	3	28	18	19	16.92	203
CT 単純	1,450	1,407	1,375	1,446	1,407	1,333	1,400	1,332	1,394	1,438	1,395	1,458	1,402.92	16,835
造影	229	211	228	203	190	195	209	215	224	205	207	225	211.75	2,541
CT（治療）	10	16	17	12	14	10	14	15	2	23	15	22	14.17	170
（病診連携）	70	54	91	80	66	68	85	76	71	52	76	71	71.67	860
RI	97	90	85	85	72	80	87	82	74	76	78	90	83.00	996
（病診連携）	5	6	5	5	3	4	5	6	3	2	2	6	4.33	52
MR I（1.5T）単純	195	197	210	232	161	191	182	173	167	179	190	195	189.33	2,272
造影	48	40	69	45	42	44	51	49	52	42	37	61	48.33	580
MR I（3.0T）単純	242	225	275	253	226	219	270	245	230	234	278	261	246.50	2,958
造影	74	61	71	87	80	72	75	93	68	69	73	90	76.08	913
（病診連携）	77	64	75	70	58	87	90	62	70	73	82	78	73.83	886
超音波 心臓	409	423	471	474	443	377	378	370	366	396	442	459	417.33	5,008
腹部	352	328	378	375	357	334	361	313	328	321	362	406	351.25	4,215
血管等	237	237	261	295	253	239	246	261	226	254	296	318	260.25	3,123
（病診連携）	8	5	14	11	9	12	10	7	6	13	8	6	9.08	109
コピー（CD, DVD, Film）	324	320	316	278	236	225	270	230	286	237	245	298	272.08	3,265
取込み	252	195	226	230	206	229	228	216	245	221	266	281	232.92	2,795
合計	7,727	7,463	7,975	7,881	7,148	7,010	7,420	7,141	7,248	7,266	7,706	8,117		90,102

	4～6	7～9	10～12	1～3	総計
病診連携/CT	5.27	5.24	5.51	5.26	5.32
病診連携/RI	5.88	5.06	5.76	4.10	5.20
病診連携/MRI	12.65	13.01	13.41	13.63	13.18
病診連携/US	0.87	1.02	0.81	0.83	0.88

(4) 中央検査部

◆中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	草野五男(検査部長) ・ 廣森真哉(検査技師長)
認定資格	細胞検査士1名 ・ 輸血認定技師1名 ・ 二級臨床検査士(微生物学)1名 NST療養士2名 ・ 神経生理認定技術師1名・医療機器情報コミュニケーター1名 超音波検査士(循環器)1名・臨床工学技士2名・糖尿病療養指導士名3名 遺伝子分析科学認定士1名
常勤技師	22名
業務補助職員	3名

◆外部精度管理参加状況

毎月	eQAP	シスメックス株式会社
6月	日本臨床検査技師会精度管理調査	日本臨床検査技師会
8月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9月	臨床検査精度管理調査	日本医師会

◆施設認定

- ・ 日本臨床衛生検査技師会 精度保証施設認定
- ・ 日本臨床細胞学会施設認定
- ・ 日本臨床細胞学会教育研修施設認定

◆診療支援

支援	内容
感染症レポート	週報、月報
病棟採血管準備	毎日(各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	毎日(1時間早出)
外来迅速検査報告	24時間勤務体制
チーム医療への参画	NST・ICT・心カテ待機等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

◆病診連携検査件数

トレッドミル	9
ホルター心電図	1
脳波	35
ABI	2
神経生理検査	30
呼吸機能検査	5
計	82

◆検査件数

H27	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
検体	107,771	98,083	115,105	109,181	100,940	106,489	114,140	105,403	102,168	111,368	99,983	104,077	1,274,708
微生物	2,452	2,153	2,242	2,200	2,127	1,914	2,128	2,140	1,912	1,882	1,849	2,107	25,106
生理	2,337	2,106	2,592	2,263	2,143	2,310	2,455	2,293	1,985	2,216	2,039	2,070	26,809
病理	992	919	1,005	1,023	933	1,081	1,091	1,042	962	1,160	1,041	1,011	12,260
合計	113,552	103,261	120,944	114,667	106,143	111,794	119,814	110,878	107,027	116,626	104,912	109,265	1,338,883

(5) 薬剤部

◆ 投薬等に関わる収入

単位：千円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投薬収入	32,513	34,252	42,510	41,284	35,321	33,740	44,183	30,719	46,739	51,873	52,672	67,759
調剤料収入	199	165	168	147	160	142	162	147	150	168	144	168
調剤技術基本料収入	102	79	83	82	84	74	86	73	79	77	69	92

◆ 薬剤管理指導等の件数

単位：件

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	284	206	290	260	248	245	235	216	145	189	126	148
薬剤情報提供料算定件数	1274	914	1013	989	1,048	946	1,081	978	978	1,009	951	1,056

◆ 診療科別外来処方箋発行件数

院外処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	眼科	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	197	407	68	178	682	404	150	375	283	99	199	219		211	687	574	562	1	5,296
2月	100	324	53	171	604	359	150	339	300	86	212	204	1	180	626	512	470	2	4,693
3月	131	361	60	180	773	417	149	369	358	96	278	226		203	686	587	581	4	5,459
4月	69	443	61	201	655	404	160	388	338	107	266	231	1	222	720	661	579	4	5,510
5月	124	357	71	179	619	337	146	393	301	87	195	210		182	594	561	516	4	4,876
6月	82	383	58	163	651	395	159	446	331	119	249	204	1	204	688	597	545	5	5,280
7月	75	435	78	173	674	423	169	457	354	91	251	224		228	700	648	579	3	5,562
8月	90	357	60	197	615	403	128	427	303	108	213	218		173	653	564	528	3	5,040
9月	111	419	54	180	630	403	147	353	346	96	237	223	1	175	632	584	543	2	5,136
10月	68	415	77	180	697	413	166	498	374	106	236	227		207	758	686	631	4	5,743
11月	59	378	51	157	662	360	145	377	315	98	233	217	1	164	649	576	516	3	4,961
12月	88	379	61	188	682	419	169	436	342	107	264	218		183	699	654	568	2	5,459
	1,194	4,658	752	2,147	7,944	4,737	1,838	4,858	3,945	1,200	2,833	2,621	5	2,332	8,092	7,204	6,618	37	63,015

全件処方箋

	内科	外科	心外	脳外	小児	産婦	整形	皮膚	泌尿	眼科	耳鼻	精神	放射	神経	循環	呼吸	消化	呼外	合計
1月	649	528	72	193	881	475	186	408	319	108	211	291	0	233	734	671	649	4	6,612
2月	304	418	55	182	750	441	198	377	333	91	218	270	1	206	658	598	575	6	5,681
3月	365	474	65	192	937	492	186	405	400	109	288	301		224	734	687	693	7	6,559
4月	259	577	64	215	790	474	210	423	378	111	282	303	3	255	763	748	696	9	6,560
5月	361	470	76	193	785	409	196	442	340	100	202	280	1	204	645	646	618	8	5,976
6月	230	496	62	170	815	470	190	483	373	133	259	268	2	231	726	682	644	9	6,243
7月	287	571	80	185	840	495	215	510	397	104	265	300	4	251	733	760	695	7	6,699
8月	288	469	63	205	755	471	167	482	356	115	221	283	1	200	694	641	614	5	6,020
9月	308	523	56	188	782	482	193	403	398	110	248	297	3	200	671	659	627	2	6,160
10月	247	526	80	191	821	498	203	539	421	113	254	296	2	237	805	772	724	8	6,737
11月	239	472	54	164	818	426	191	416	364	108	248	276	2	181	688	647	592	5	5,891
12月	317	483	64	201	878	524	197	478	389	115	279	282	3	211	740	743	646	5	6,655
	3,854	5,997	791	2,279	9,852	5,657	2,332	5,366	4,468	1,317	2,975	3,447	22	2,633	8,591	8,254	7,773	75	75,683

◆ 院外処方率

単位：％(休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	80.1	82.6	83.2	84.0	81.6	84.6	83.0	83.7	83.5	85.2	84.2	83.3

(6) 栄養管理室

◆平成27年 年間栄養指導件数

	入院 外来 合計	個別指導			集団指導 母親教室 (名)
		人数 (名)	入院 (名)	外来 (名)	
1月	73	65	42	23	8
2月	63	58	35	23	5
3月	61	61	24	37	12
4月	79	74	38	36	5
5月	65	60	39	21	5
6月	74	69	38	31	5
7月	69	61	32	29	8
8月	62	50	35	15	12
9月	57	52	29	23	5
10月	67	61	35	26	6
11月	56	46	27	19	10
12月	54	50	26	24	4
合計	780	707	400	307	85

◆平成27年 栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎臓病	4	5	2	1	3	2	3	2	3	2	4	2	33
高血圧症	7	8	10	7	7	5	4	3	3	10	4	3	71
心臓病	10	15	8	26	17	19	16	14	9	7	9	11	161
肝臓病	1	2	0	3	3	2	4	1	1	5	2	0	24
糖尿病	17	9	22	11	18	16	15	14	18	22	12	18	192
潰瘍	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3
膵臓病	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脂質異常症	2	2	1	5	1	2	3	2	1	2	1	3	25
肥満症	5	1	2	4	0	4	2	2	6	1	4	2	33
妊娠中毒症	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
炎症性腸疾患	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
貧血症	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	0	0	6
その他	16	11	14	15	9	19	13	9	10	11	9	11	147
合計	65	58	61	74	60	69	61	50	52	61	46	50	707

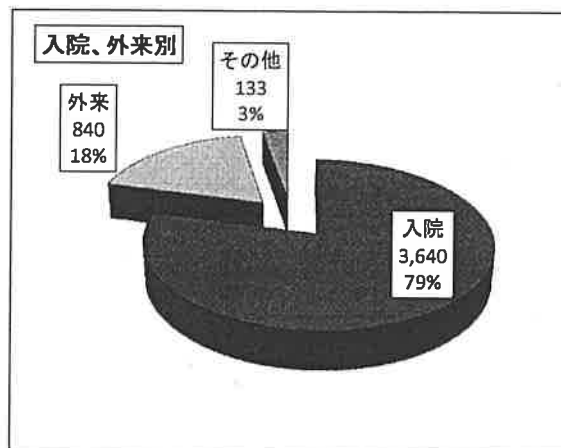
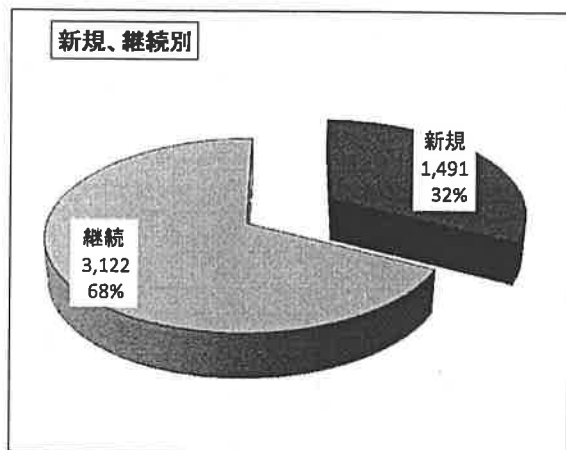
◆平成27年 給食食数実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般食	11,255	10,997	11,478	10,207	11,057	10,966	11,337	10,730	10,299	10,045	9,650	9,846
常食	7,950	8,037	8,489	7,713	8,063	8,374	8,434	8,344	7,752	7,619	7,564	7,519
軟食	3,166	2,842	2,829	2,377	2,807	2,455	2,806	2,194	2,420	2,308	1,950	2,241
流動食	139	118	160	117	187	137	97	192	127	118	136	86
特別治療食	10,489	9,724	11,340	9,865	10,401	9,586	10,241	10,523	9,005	9,242	9,894	10,496
加算食	5,483	5,655	6,499	5,382	6,229	5,666	6,583	6,461	5,386	5,879	6,221	6,502
非加算食	5,006	4,069	4,841	4,483	4,172	3,920	3,658	4,062	3,619	3,363	3,673	3,994
腎臓食	206	235	153	177	262	293	345	258	173	181	306	485
糖腎食	96	0	125	147	151	69	220	161	22	90	236	209
透析食	8	73	62	120	0	2	42	7	11	168	87	83
経腸栄養法・経胃管食	104	56	83	148	135	83	35	24	7	27	28	27
減塩食	2,441	2,481	2,289	2,094	2,572	2,462	2,790	2,724	2,241	2,299	2,971	2,525
肝臓食	242	115	299	297	181	256	269	196	242	213	38	214
EC食	1,281	1,471	1,937	1,245	1,606	1,594	1,760	1,834	1,645	1,733	1,424	1,768
脂質異常症食	0	43	25	0	0	25	0	41	0	42	75	0
貧血食	140	91	280	305	75	34	72	76	5	17	79	64
脂肪制限食	381	590	499	263	398	239	266	518	421	458	272	291
潰瘍食	66	81	47	7	8	0	87	110	123	46	31	11
炎症性腸疾患	45	22	46	76	10	19	0	8	33	0	9	0
濃厚流動食	1,547	1,342	1,378	1,529	1,182	1,085	1,242	1,265	963	936	1,050	1,362
術後食	473	397	654	503	831	590	697	504	463	605	605	676
易消化食	150	137	142	274	140	190	121	30	193	121	176	63
低残渣食	247	248	226	141	217	208	113	240	228	140	257	228
離乳食	296	317	374	422	336	309	184	212	248	150	148	174
嚥下訓練食	1,900	1,334	1,902	1,413	1,627	1,317	1,148	1,389	1,307	1,196	1,339	1,344
検査食	0	2	0	0	0	5	0	0	0	5	5	0
その他	748	582	701	590	552	692	732	808	566	697	644	854
ミルク	118	107	118	114	118	114	118	118	114	118	114	118
合計	10,489	9,724	11,340	9,865	10,401	9,586	10,241	10,523	9,005	9,242	9,894	10,496

(7) 地域連携課

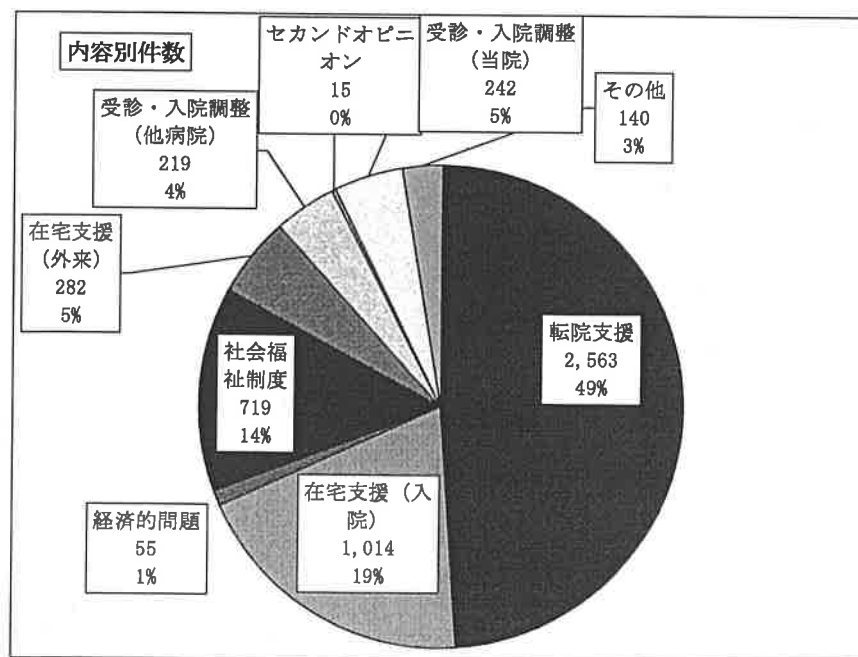
1、平成27年度医療福祉相談件数

新規				継続				合計			
入院	外来	その他	計	入院	外来	その他	計	入院	外来	その他	計
962	468	61	1,491	2,678	372	72	3,122	3,640	840	133	4,613



2、平成27年度内容別相談件数

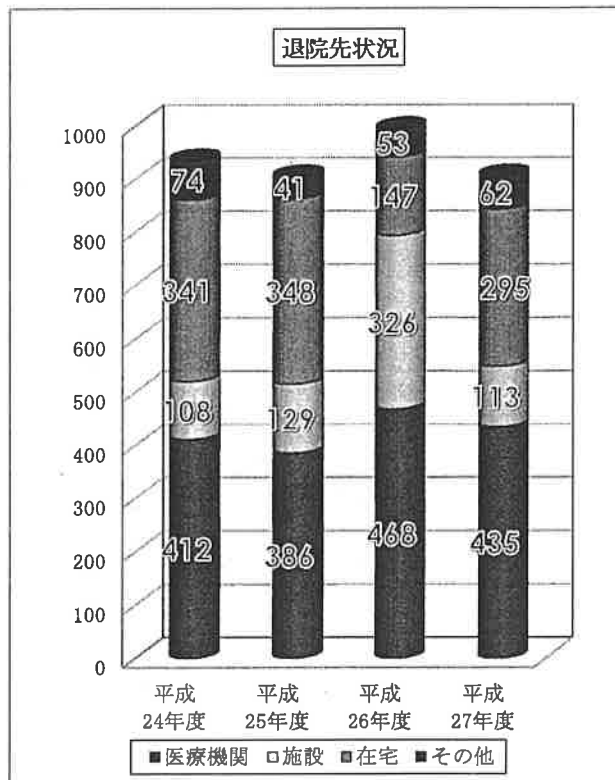
転院支援	在宅支援 (入院)	経済的問 題	社会福祉 制度	在宅支援 (外来)	受診・入院 調整 (他病院)	セカンドオ ピニオン	受診・入院 調整 (当院)	その他	計
2,563	1,014	55	719	282	219	15	242	140	5,249



3、退院先状況

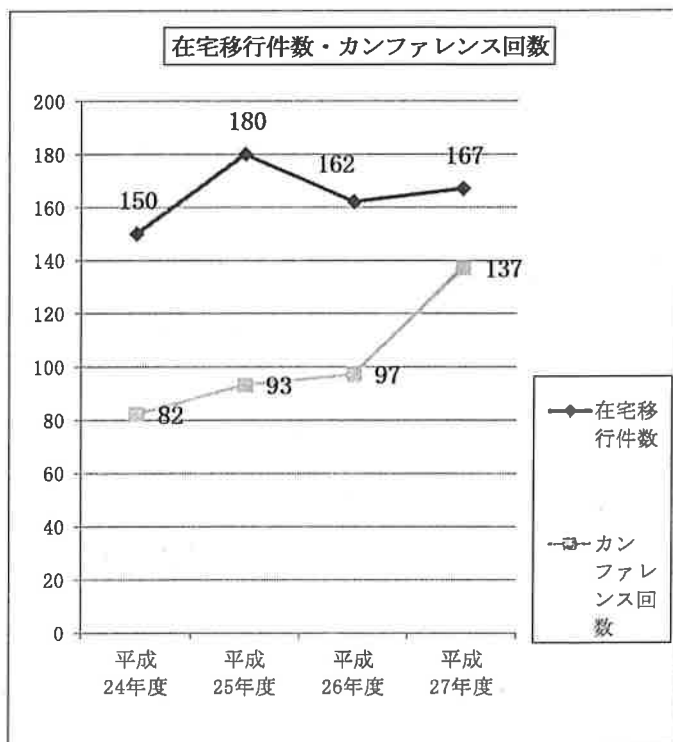
年度 退院先	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
医療機関	412	386	468	435
施設	108	129	326	113
在宅	341	348	147	295
※その他	74	41	53	62
計	935	904	994	905

※その他 = 自宅で待機、死亡等



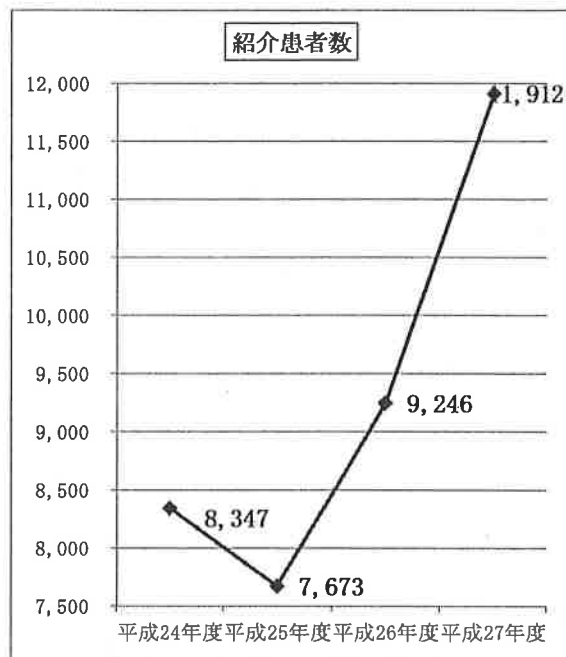
4、在宅移行件数・退院時カンファレンス開催回数

	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
在宅移行件数	150	180	162	167
カンファレンス回数	82	93	97	137



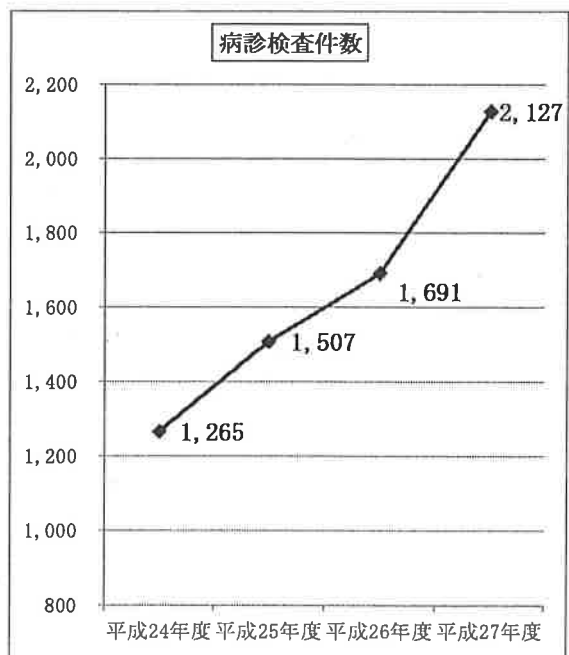
5、紹介患者数（科別）

診療科	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
内科		184	104	296	262
循環器科		678	649	689	990
消化器科		1,040	983	1,019	1,507
呼吸器科		713	648	816	982
外科		599	498	642	817
心外科		183	202	170	222
呼吸器外科		23	18	23	39
脳外科		305	238	305	456
小児科		591	473	759	891
産婦人科		960	865	1,099	1,240
整形外科		1,082	903	896	1,009
皮膚科		104	283	287	481
泌尿器科		284	255	297	371
耳鼻いんこう科		44	43	139	299
精神科		25	26	29	33
神経内科		413	341	466	516
放射線科		1,104	1,075	1,241	1,707
眼科		15	69	73	90
合計		8,347	7,673	9,246	11,912



6、病診連携検査 検査種類別件数

検査種類	年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
C T		529	664	715	843
M R I		446	524	553	820
甲状腺エコー		9	8	12	13
腹部エコー		38	38	33	27
心エコー		27	40	40	43
下肢静脈エコー		6	9	7	8
下肢動脈エコー		0	2	1	2
頸動脈エコー		13	11	11	14
胃透視		0	0	0	0
胃カメラ		83	121	101	100
トレッドミル		5	12	11	8
ホルターEKG		3	1	2	1
脳波		43	31	33	24
神経生理検査		10	15	22	32
ABR		0	0	0	0
ABI		8	10	2	4
マンモグラフィー		0	0	0	0
CF		45	21	148	188
計		1,265	1,507	1,691	2,127

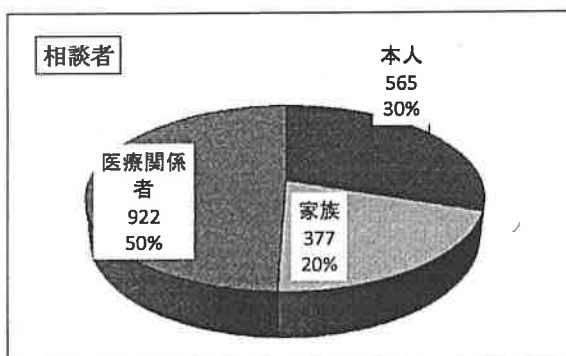
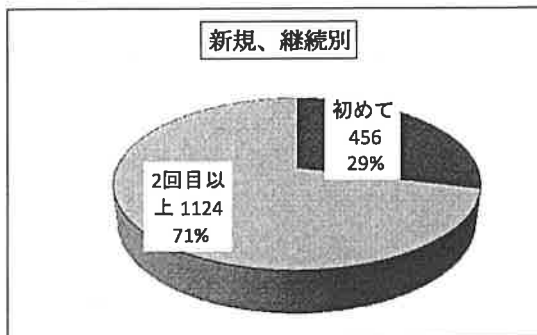
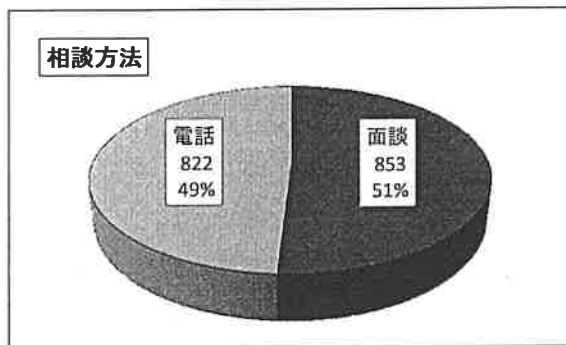


7、平成27年度がん相談支援センター相談実績

総相談件数	1,675
-------	-------

<相談内訳>

相談方法		新規・継続別		相談者		
面談	電話	新規	継続	本人	家族	医療関係者
853	822	456	1,124	565	377	922



8、平成27年度セカンドオピニオン紹介件数

診療科	件数
心臓血管外科	1
産婦人科	1
呼吸器内科	2
呼吸器外科	1
消化器内科	1
外科	1

(8) 医療安全管理部

【医療安全対策室】

◆ 平成27年のインシデント・アクシデントについて

全職員から、日常の診療における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。

○平成27年の総数は1,582件となり、内訳は以下のとおりです。

インシデント（ヒヤリ・ハッ）報告：計1,575件

アクシデント報告：計7件

レベル1：5件

生活にほとんど影響しない軽度な後遺症が残った場合

当初必要でなかった治療や処置が必要となり、入院日数又は外来通院の増加が必要になった場合

レベル2：1件

一時的に生命徴候に重大な影響を与え、治療を要したが回復した場合や生活に影響する中程度の後遺症が残った場合

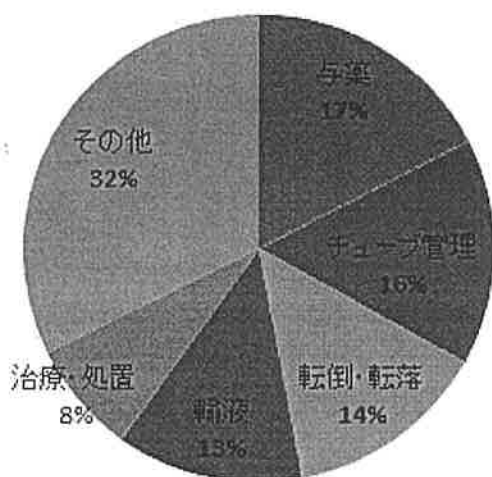
レベル3：1件

生活に影響する高度の後遺症が残った場合及び患者の治療経過に重大な影響を与えた場合

レベル4：0件

死亡した場合

分野別報告件数の内訳



【注】

- 与薬： 薬の量や種類、手渡し間違い
- チューブ管理： 点滴時のチューブの閉塞や抜去
- 転倒・転落： 歩行時、排泄時の転倒やベッドからの転落
- 輸液： 点滴速度、点滴時間の間違い
- 治療・処置： 採血、血糖測定関連の間違い
- その他： 機械類操作、内視鏡以外の検査・処置、食事等

◆ 平成27年に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。平成27年に実施した主な対策・取組みは次のとおりです。

*医療安全マニュアルの改訂

*フルネーム確認（患者誤認防止）の実施

＊指差し呼称確認の実施

＊医療事故調査制度の体制整備

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図るなど、情報の共有に努めています。

◆ 研修会の実施について

毎年2回、職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。

平成27年第1回目の研修は9月に接遇・医療安全研修を実施しました。第1部では看護部が作成した接遇ビデオを上映し、入院中の患者の不満や期待について考えました。また第2部では今年度から施行される医療事故調査制度に絡めて寸劇を行い、医療事故が起きた時の対応等について研修を行いました。

第2回目は10月に児童虐待に係る医学的研修を実施しました。児童虐待の未然防止及び早期発見・早期対応を図るため三重県と共催で日本子ども虐待医学会が開発した虐待対応プログラム「BEAMS」（「心からの笑顔」の意味）による医学的研修を行いました。

第1回 平成27年9月18日

研修名 接遇・医療安全研修会

第1部 接遇ビデオ「ある看護師と患者の1日」

第2部 寸劇「医療事故調査制度に該当する事例が起きたら」

出演者 看護師、検査技師、薬剤師、事務職員等

第2回 平成27年10月29日

研修名 児童虐待に係る医学的研修

講師 (独) 国立病院機構 西埼玉中央病院 小児科部長 小穴 慎二 先生

◆ 院内迷惑行為対策について

近年、患者や家族等から病院職員に対する暴言・暴力行為など、病院の運営を妨げる迷惑行為が全国の病院で問題となっています。当院では院内でのこのような迷惑行為に対し、医療安全対策室が中心となり対策に取り組んでいます。平成22年度からは警察OB職員を院内に配置し体制を強化しております。

【感染対策室】

病院には、感染症の治療のため入院される患者さんや、病気や治療の結果から感染症にかかりやすくなっている患者さんなど様々な状態にある患者さんがみえます。安全かつ適切な医療を提供するため、具体的かつ実践的に院内感染対策を実行する実務組織として、院内感染対策チーム（Infection Control Team）があり、感染対策室はその事務局を担っています。

◆院内感染対策チーム（ICT）構成メンバー

リーダー：感染対策室 室長 （専従 感染管理認定看護師）

メンバー：感染症専門医（専任）、ICD 4名、PレICD 3名、感染管理認定看護師（兼任）
1名、薬剤師 2名（内1名はICD）、細菌検査技師 4名、事務 1名。

◆実 績

1. 地域支援ネットワーク事業への参画

院内感染防止対策については、平成24年度診療報酬改定で大幅に加算が増額され、同時に病院間の連携が強く求められるようになった。平成27年も、引き続き、感染防止対策加算2を算定する医療機関と4回／年合同カンファレンスを開催し、加算1の連携医療機関と1回／年の相互評価を行い、互いにフィードバックを行ってきた。

また、県内の医療機関が行う感染対策の取り組みを支援するとともに、アウトブレイク発生時などの緊急時に医療機関に対して的確な支援を行うため、三重県感染対策支援ネットワーク（Mie Infection Control Network：MieICNet）が発足し、当院も運営に参画している。

2. サーベイランス

- （1）高度耐性菌、ESBL 産生菌、CD、血液など無菌材料からの細菌検出状況、MRSA 検出状況、抗 MRSA 薬使用状況、カルバペネム系抗菌薬長期使用例を週報としてまとめ、毎週（木）ICTにて検討。現場における感染対策の確認、指導。
- （2）抗 MRSA 薬 TDM 実績、抗菌薬使用実績まとめ （薬剤部）
- （3）アンチバイオグラム（主要菌種）、材料別、病棟別分離菌のまとめ、ESBL 耐性菌、高度耐性菌分離割合、流行性ウイルス検出状況など（細菌検査室）
- （4）針刺し・切創報告集計、分析
- （5）厚生労働省「院内感染対策サーベイランス事業」JANIS への登録
全入院患者部門、検査部門に参加。
- （6）中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス（外科病棟）
- （7）日本看護協会 DiNQL 事業への参加。
2病棟で、中心静脈カテーテル関連血流感染（外科病棟以外）、カテーテル関連尿路感染、人工呼吸器関連肺炎サーベイランスを実施。

3. 院内ラウンド

毎週（木）検討会後に、ICTメンバー3名でチェックリストを用いて現場をラウンドし、遵守状況を評価。写真やコメントを添え、当該部署（所属長、リンクナース）にフィードバックを行った。次回ラウンドで改善状況を確認し、ラウンド結果をICT内で共有した。ラウンド項目は、環境編、標準予防策・経路別感染予防策に関する項目、デバイス関連感染対策、その他部門の特徴にあわせてICNが事前に作成した。

他部署の結果も参考にできるよう、院内全体にも定期的に掲示していきたい。

4. 感染管理教育（院内）

2月 全職員：院内感染防止研修会「針刺し切創による血液・体液曝露防止」

4月 新人看護師：スタンダードプリコーション、職業感染対策、輸液・静脈注射における感染管理、洗浄・消毒・滅菌、感染防止技術

研修医：感染防止対策の基本他、感染症の治療、感染症薬剤治療効果・TDM、細菌検査実習（ICTメンバーで分担）

6月 看護補助職員：感染経路別予防策と个人防护具の選択

10月 委託業者（清掃）：「環境清掃と感染予防」

11月 全職員：院内感染防止研修会「手洗い演習：「あなたの手洗いは大丈夫？」（ICT、リンクナースで実施）

11月 看護補助職員：注目すべき薬剤耐性菌等とその対策

5. 職業感染対策

(1) B型肝炎、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎ウイルスの抗体価測定。

(2) (1) の陰性者へワクチン接種。（入職者と現職者で未実施の職員に実施）

(3) 結核健診（5月、10月）

(4) インフルエンザワクチン接種（10月）。

6. 新型インフルエンザ等の新たな感染症に対しての対応、整備

(1) 平成 27 年 6 月 2 日通知を受け、院内の MERS 対応について準備。

情報共有、対応フロー⇒マニュアル作成、職員への周知、ポスター掲示、診察室準備。个人防护具の着脱訓練（昨年未実施の関係部門中心に実施）。

(2) (県) MERS にかかる情報交換会（7 月 2 日）出席。

(3) 新型インフルエンザ等に関する指定地方公共機関担当学会議（7 月 29 日）出席。

(4) 指定地方公共機関としての「業務計画」を、三重県、四日市市に提出し、病院ホームページにて公開。診療継続計画（案）を見直し、策定。

7. 感染対策上問題となる環境や業務内容についての見直し、改善、指導

(1) 清拭車の清掃手順を標準化するため、絵でみる手順書を作成。

(2) 留置針挿入時の手袋着用率向上にむけ、ニトリルグローブ導入に向け試行。

(3) 清掃カート見直し後の一覧表を配布し、清掃業者に指導。

(4) 携帯用手指消毒薬の新規導入。

8. 感染防止マニュアル改訂、作成

- (1) 血液・体液曝露時のフローチャート (HIV) 改訂。
- (2) 器具の洗浄、消毒一覧表の見直し、改訂。

9. 感染症法による発症届 報告

◎ 2 類感染症 結核：17 件

(参考：2014 年 16 件、2013 年 16 件、2012 年 18 件、)

◎ 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 (O157)：0 件

(参考：2014 年 1 件、2013 年 2 件、2012 年 3 件)

◎ 4 類感染症 E 型肝炎：1 件、レジオネラ症：2 件

(参考：2014 年 デング熱：1 件、レジオネラ症：4 件)

◎ 5 類感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：1 件 (参考：2014 年 1 件)

侵襲性肺炎球菌感染症： 3 件 (参考：2014 年 2 件)

侵襲性インフルエンザ菌感染症：1 件

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：1 件

後天性免疫不全症候群：2015 年 0 件 (参考：2014 年 4 件、2013 年 5 件)

(9) 学会・研究会発表及び論文発表実績

呼吸器内科

<学会・総会発表>

●第 55 回日本呼吸器学会学術集会 2015. 4. 17～19 東京国際フォーラム

「当院におけるニューモシスチス肺炎症例の検討」

前田光、寺島俊和、笹邊淳、藤原篤司、中原博紀、油田尚総、吉田正道

●第 13 回日本臨床腫瘍学会学術集会 2015. 7. 16～18 ロイトン札幌、ホテルさっぽろ芸文館、札幌市教育文化会館

・「肺癌と皮膚筋炎の合併をきたした 3 例の検討」

寺島俊和、笹邊淳、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

・「当院外来化学療法室で発生した薬剤性過敏反応事例の検討」

吉田正道、寺島俊和、笹邊淳、藤原篤司、油田尚総

●第 58 回日本肺癌学会学術集会 2015. 11. 26～28 パシフィコ横浜

・「当院における小細胞肺癌 sensitive relapse 症例の検討」

藤原篤司、児玉秀治、前田光、油田尚総、吉田正道

<学会・地方会>

●第 125 回日本結核病学会東海地方学会・第 107 回日本呼吸器学会東海地方学会
2015. 6. 13～14 名古屋市中企業振興会館（吹上ホール）

・「呼気 NO 測定で経過を追跡した好酸球性肺炎の 1 例」

児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

・「Crizotinib使用中に癌性心膜炎増悪で再発しAlectinibを導入したALK融合遺伝子陽性肺腺癌の一例」

笹邊淳、児玉秀治、寺島俊和、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

・「*Mycobacterium avium*と *Mycobacterium intracellulare*の混合感染の 1 例」

寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

●第 126 回日本結核病学会東海地方学会・第 108 回日本呼吸器学会東海地方学会
2015. 11. 14～15 じゅうろくプラザ（岐阜市）

・「肺移植を行った pleuroparenchymal fibroelastosis の 1 例」

児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

・「両側胸水貯留の精査にて発覚した IgG4 関連疾患の 1 例」

寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

・「好酸球性肺炎と肺アスペルギルス症を合併し治療に難渋した肺カンサシ症の 1 例」

笹邊淳、児玉秀治、寺島俊和、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

・「気管支鏡検体にて確定診断した肺 MAC 症における MAC 抗体の検討」

前田光、児玉秀治、寺島俊和、笹邊淳、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

<研究会発表>

●第 25 回三重県呼吸不全研究会 2015. 1. 17 ホテルグリーンパーク

「当院の救急外来における NPPV 装着症例の検討」

藤原篤司

●第 120 回三重胸部疾患症例検討会 2015. 1. 20 四日市都ホテル

「出題②. 空洞性陰影」

油田尚総

●第 141 回びまん性肺疾患研究会 2015. 5. 9 薬業年金会館（大阪市中央区）

「検診で発見された嚢胞性肺病変を伴う胸部異常陰影の一例」

吉田正道、草野五男

●Lung Cancer Meeting in MIE 2015. 5. 22 ベイシスカ

「アフアチニブ使用による下痢症状をアドソルビンでコントロールし得た肺癌症例」

藤原篤司

●第 18 回東海呼吸器真菌症研究会・第 5 回東海呼吸器抗酸菌症研究会

2015. 5. 30 名鉄グランドホテル

「*Mycobacterium avium* と *Mycobacterium intracellulare* の混合感染の 1 例」

寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、油田尚総、吉田正道

●Scientific Exchange Meeting in 四日市 2015. 6. 23 四日市都ホテル

「COPD、ACOS との鑑別に難渋した高齢者気管支喘息の症例」

藤原篤司

●第 5 回北勢地区 Air Way Forum 2015. 9. 4 四日市都ホテル

「当院における ICS/LABA 配合剤の使用経験」

寺島俊和

●三重 IPF 研究会 2015. 9. 11 プラトンホテル四日市

「実地医療としての IPF の捉え方」

藤原篤司

●第 79 回東海呼吸器感染症研究会 2015. 9. 12 愛知県産業労働センター（ウイंक愛知）

「全身性ステロイドは使用せずイトラコナゾールに反応を認めた mucoid impaction of bronchi の一例」

油田尚総、寺島俊和、児玉秀治、笹邊淳、前田光、藤原篤司、吉田正道

●Scientific Exchange Meeting in Mie 2015 2015. 10. 9 ベイシスカ

「喘息・COPD 診断・治療における気道炎症評価の Pros&Cons ～症例を中心に～」

吉田正道

<講演>

- 呼吸器疾患勉強会 in 鈴鹿 2015. 3. 27 村瀬病院 介護老人保健施設ひまわり
「COPD 治療～喘息合併をいかに見抜くか～」

吉田正道

- 鈴鹿亀山地区薬剤師会学術講演会 2015. 6. 18 鈴鹿医療技術大学 白子キャンパス
「COPD の治療について」

吉田正道

- 喘息/COPD 連携フォーラム 2015 2015. 8. 25 プラトンホテル四日市
「COPD、気管支喘息合併 COPD、高齢者喘息、それぞれの治療戦略」

吉田正道

- 第 355 回北勢地区呼吸器談話会 2015. 4. 20 四日市医師会館
「呼気 NO 測定とモストグラフを用いた気管支喘息診療」

吉田正道

- 第 349 回北勢地区呼吸器談話会 2015. 10. 19 四日市医師会館
「肺炎球菌ワクチンについて」

油田尚総

消化器内科

<学会・研究会発表>

- 第 275 回肝胆膵疾患研究会 2015. 2. 6
「再発肝細胞癌の治療経過中に合併した肝ガス壊疽症の 1 例」
斎木良介、大矢由美、西浦祐貴、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、井上英和、高瀬幸次郎

- 第 225 回日本内科学会東海地方会例会 2015. 2. 22
「急性膵炎を繰り返し、3D-CT にて術前診断しえた膵動静脈奇形の 1 例」
西浦祐貴、田中淳一郎、川崎優也、森谷勲、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎
「再発肝細胞癌の治療経過中に合併した肝ガス壊疽症の 1 例（優秀演題賞受賞）」
斎木良介、大矢由美、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、井上英和、高瀬幸次郎
「壊疽性膿皮症を合併した潰瘍性大腸炎の 1 例」
溝口翔子、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

- 第 101 回日本消化器病学会総会 2015. 4. 23 宮城
「次世代シーケンスを用いた大腸腺腫内癌患者と健常者の腸内細菌の比較検討」

笠井智佳、川崎優也、森谷勲、田中淳一郎、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎（三重県立総合医療センター 消化器内科）、為田雅彦、杉本和史、白木克哉（三重大学医学部附属病院 消化器・肝臓内科）

●第 276 回肝胆膵疾患研究会 2015. 5. 8

「急性膵炎を繰り返し、3D-CT にて術前診断しえた膵動静脈奇形の 1 例」

西浦祐貴、田中淳一郎、川崎優也、森谷勲、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●第 11 回三重ウイルス肝炎研究会 2015. 7. 5

「当院における大腸 ESD 治療の現況」

井上英和、西浦祐貴、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、高瀬幸次郎

●第 18 回三重臨床消化器病研究会 2015. 7. 11

「当院における大腸 ESD 治療の現況」

井上英和、西浦祐貴、森谷勲、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、高瀬幸次郎

●第 277 回肝胆膵疾患研究会 2015. 9. 25

「緩徐に意識障害が進行したヘモジデローシスの 1 例」

森谷勲、西浦祐貴、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

●第 7 回三重緩和医療研究会 2015. 11. 22

「当院における経皮経食道胃管挿入術(PTEG)の現状」

森谷勲、西浦祐貴、田中淳一郎、笠井智佳、大矢由美、井上英和、高瀬幸次郎

<英語原著論文>

● Comparison of the gut microbiota composition between obese and non-obese individuals in a Japanese population, as analyzed by terminal restriction fragment length polymorphism and next-generation sequencing

Chika Kasai, Kazushi Sugimoto, Isao Moritanil, Junichiro Tanaka, Yumi Oya, Hidekazu Inoue, Masahiko Tameda, Katsuya Shiraki, Masaaki Ito, Yoshiyuki Takei and Kojiro Takase

BMC Gastroenterol. 2015 Aug 11;15:100.

循環器内科

<学会・研究会発表>

●第 24 回日本心血管インターベンション治療学会学術集会 2015. 7. 30～8. 1 福岡

「Aortocoronary dissection and cardiac tamponade complicating percutaneous coronary intervention for LAD」 【ポスター】

Hiroshi Nakajima, Atsuya Hirota, Yosuke Hirabayashi, Shigetada Yamamoto, Toshiki Sawai, Nobuyuki Moriki, Katsutoshi Makino

●日本循環器学会 第145回東海地方会 2015.6.13 名古屋

「治療に難渋した孤発性肺動脈弁感染性心内膜炎の一例」

廣田敦也、中嶋寛、平林陽介、山本重忠、森木宣行、牧野克俊

●日本循環器学会 第146回東海・第131回北陸合同地方会 2015.10.24 名古屋

「カルシウム拮抗薬と硝酸薬の内服下で、多枝冠攣縮を生じた異型狭心症の一例」

廣田敦也、山本忠重、中嶋寛、澤井俊樹、牧野克俊

神経内科

<学会発表>

●第225回日本内科学会東海地方会 2015.2.22 三重県医師会館

「不穏状態で救急搬送され、髄膜癌腫症と診断された1例」

脇坂太貴、三木章子、古田智之、高橋雄、鈴木賢治

●第225回日本内科学会東海地方会 2015.2.22 三重県医師会館

「脳底動脈解離に伴う若年性脳梗塞の1例」

児玉秀治、三木章子、古田智之、高橋雄、鈴木賢治

●第40回日本脳卒中学会総会 2015.3.27 広島グリーンアリーナ

「骨髄線維症に合併した再発する脳静脈血栓症の一例」

古田智之、三木章子、高橋雄、鈴木賢治

●第142回日本神経学会東海北陸地方会 2015.6.27 名古屋国際会議場

「両側内側縦束（MLF）症候群に輻輳障害の見られた1例」

高橋雄、三木章子、古田智之、鈴木賢治

●第33回日本神経治療学会総会 2015.11.27 名古屋国際会議場

「当院における嚥下チーム結成までの経過と現状について」

寺西紘子、服部節子、加藤奈津子、古田智之、鈴木賢治

外科

<学会・研究発表>

●三重断酒会講演 2015.2.1 三重（四日市）

「救命救急医療から見た飲酒運転とアルコール依存症」

伊藤秀樹

- 地域連携症例検討会 2015.2.10 三重（四日市）
「大腸カプセル内視鏡検査の現状と今後の課題」
岩田崇、尾嶋英紀、池田哲也

- mCRC Expert Meeting in Yokkaichi 2015 2015.3.6 三重（四日市）
「当科における *KRAS* 野生型進行再発大腸癌に対する抗 EGFR 製剤使用の現状」
岩田崇、尾嶋英紀、山本晃、市川崇、渡部秀樹、横江毅、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

- 第1回三重消化器内視鏡外科セミナー 2015.4.4 三重（津）
「腹腔鏡下 S 状結腸切除術の手術手技」
尾嶋英紀

- 第20回日本緩和医療学会学術大会 2015.6.20 神奈川（横浜）
「癌性腹膜炎による消化管閉塞に対するオクトレオチドの臨床効果の検討」
渡部秀樹、酒井美紀子、米津由佳、川瀬佐登美、安藤真弓、小林良成、坂倉究、小西邦彦

- 第70回日本消化器外科学会総会 2015.7.15 静岡（浜松）
「T-shaped anastomosis による腹腔鏡下胃全摘後の再建法の導入」
横江毅、山本晃、市川崇、岩田崇、渡部秀樹、尾嶋英紀、伊藤秀樹、小西尚巳、池田哲也、登内仁

- 第70回日本消化器外科学会総会 2015.7.17 静岡（浜松）
「腹腔鏡下 S 状結腸切除術における hemi-double stapling technique を用いた吻合」
尾嶋英紀、池田哲也、山本晃、市川崇、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、小西尚巳、登内仁

- 第70回日本消化器外科学会総会 2015.7.17 静岡（浜松）
「消化管閉塞症例に対する消化管バイパス手術の検討」
渡部秀樹、山本晃、市川崇、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

- 第13回日本臨床腫瘍学会学術集会 2015.7.17 北海道（札幌）
「化学療法に関連した消化管穿孔の検討」
岩田崇、尾嶋英紀、山本晃、市川崇、渡部秀樹、横江毅、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

- JDDW2015 第13回日本消化器外科学会大会 2015.10.9 東京（品川）
「当科における腹腔鏡手術の意義」
登内仁、山本晃、市川崇、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也

●JDDW2015 第13回日本消化器外科学会大会 2015.10.10 東京（品川）

「当院における大腸悪性狭窄に対する大腸ステント治療の現状と検討」

渡部秀樹、山本晃、市川崇、岩田崇、横江毅、尾嶋英紀、小西尚巳、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第43回日本救急医学会学術集会 2015.10.21 東京

「自動車落下による外傷性窒息と考えられた心肺停止の一例」

伊藤秀樹、田代晴彦

●第53回日本癌治療学会学術大会 2015.10.31 京都（京都）

「当院におけるがん性疼痛の突出痛に対する粘膜吸収性フェンタニル製剤の使用経験」

渡部秀樹、酒井美紀子、米津祐佳、川瀬佐登美、安藤真弓、高橋実音子、児玉秀治、小林良成、坂倉究、小西邦彦

●第1回北勢地区消化器がん研究会 2015.11.6 三重（四日市）

「当科における進行再発大腸癌のRAS測定状況と分子標的薬の選択について」

岩田崇、尾嶋英紀、大村悠介、山本晃、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●アルコール関連問題啓発フォーラム 2015.11.15 三重（津）

「三重県のアルコール救急医療」

伊藤秀樹

●四日市医師会講演 2015.11.20 三重（四日市）

「四日市のアルコール救急医療」

伊藤秀樹

●第285回三重外科集談会 2015.12.6 三重（津）

「横行結腸癌十二指腸浸潤に対し根治切除を施行した2例」

尾嶋英紀、岩田崇、大村悠介、山本晃、渡部秀樹、横江毅、伊藤秀樹、池田哲也、登内仁

●第28回日本内視鏡外科学会総会 2015.12.12 大阪（大阪）

パネルディスカッション

・「大腸穿孔に対する腹腔鏡手術」

・「S状結腸憩室穿通に対する腹腔鏡下S状結腸切除術閉塞機転からみた術後癒着性腸閉塞に対する腹腔鏡手術の検討」

尾嶋英紀、大村悠介、山本晃、岩田崇、渡部秀樹、横江毅、小西尚巳、池田哲也、登内仁

●第28回日本内視鏡外科学会総会 2015.12.12 大阪（大阪）

「閉塞機転からみた術後癒着性腸閉塞に対する腹腔鏡手術の検討」

横江毅、大村悠佑、山本晃、岩田崇、渡部秀樹、尾嶋英紀、小西尚巳、池田哲也、登内仁

心臓血管外科・呼吸器外科

<学会・研究会発表>

●第32回日本呼吸器外科学会総会 2015.5.14～15 高松

- ・「急性膿胸に対する治療戦略：当院における急性膿胸124例の検討」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

- ・「肺切除術における術後肺癰の予測因子に関する検討」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

●第19回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会 2015.9.4 東京

「pleuroparenchymal fibroelastosis（網谷病）に気胸を合併した1例

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

●第68回日本胸部外科学会総会 2015.10.17～20 神戸

「ハイリスク難治性気胸に対するリスク評価と治療戦略

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

●第56回日本肺癌学会総会 2015.11.26～28 横浜

- ・「左胸水で発見された膀胱癌の横隔膜転移の1例」

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

- ・「合併症を有する肺癌の外科治療：術後合併症と周術期管理の検討」

鈴木仁之、庄村心、矢田真希、近藤智昭

<論文発表>

●針生検で肺腺癌と診断された肺膿瘍の1例

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

胸部外科 68(7):539-542, 2015

●肺原発明細胞癌の1例

庄村心、鈴木仁之、矢田真希、近藤智昭

胸部外科 68(10):955-957, 2015

●多発性肺転移を契機に発見された肺のみに転移を伴った前立腺癌の1例

鈴木仁之、庄村心、井上健太郎、矢田真希、天白宏典、近藤智昭

日本呼吸器外科学会雑誌 29(2):241-245, 2015

脳神経外科

<学会発表>

●MMC 神経内科・脳神経外科合同セミナー 2015.1.16 ホテルグリーンパーク津

「痙攣発作後進行性四肢麻痺をきたした1例」

山道茜

- 第 14 回三重・大阪脳血管障害治療研究会 2015. 2. 6 ベイシスカ
「中大脳動脈分岐部の血豆状動脈瘤の治療」
深澤恵児、亀井裕介、山道茜、田代晴彦、石田藤麿

- 第 38 回日本脳神経外傷学会 2015. 3. 6 徳島
「慢性硬膜下血腫を合併した脳脊髄液減少症の一例」
深澤恵児、亀井裕介、山道茜、田代晴彦

- 第 54 回中部脊髄外科ワークショップ 2015. 3. 14 名古屋
「前方固定術を要した頸椎上関節突起骨折の 2 例」
山道茜、深澤恵児、亀井裕介、田代晴彦

- Stroke2015 (第 31 回スパズム・シンポジウム) 2015. 3. 26～28 広島
「脳槽灌流療法を併用した当院におけるくも膜下出血後の脳血管攣縮予防の検討」
深澤恵児、亀井裕介、山道茜、田代晴彦

- Stroke2015 (第 44 回日本脳卒中の外科学会) 2015. 3. 26～28 広島
「対側からの pterional approach にてクリッピング術を施行した carotid cave aneurysm
の 2 例」
亀井裕介、山道茜、深澤恵児

- 第 24 回脳神経外科手術と機器学会 2015. 4. 3 大阪
「椎骨動脈病変に対する ECA-RA-V3 バイパスの有用性」
亀井裕介

- 第 88 回日本脳神経外科学会 中部支部学術集会 2015. 4. 25 金沢
「中大脳動脈分岐部の血豆状動脈瘤の一例」
深澤恵児、亀井裕介、山道茜、田代晴彦、石田藤麿

- 第 80 回三重脳神経外科集談会 2015. 5. 15 ベイシスカ
「自在脳ベラ開創器の力学的考察と安定した力学モデルの構築」
岡田健、亀井裕介、深澤恵児

- 第 17 回三重・大阪脳腫瘍カンファランス 2015. 6. 19 津都ホテル
「再発中頭蓋窩類皮腫の 1 例」
岡田健、亀井裕介、深澤恵児

- 第 30 回日本脊髄外科学会 2015. 6. 25～26 札幌
 - ・「当院における外側型腰椎椎間板ヘルニアの診断および治療」
深澤恵児、亀井裕介、山道茜、田代晴彦
 - ・「骨棘による腰椎椎間孔狭窄症の 3 例」
亀井裕介、深澤恵児、山道茜

●白梅カンファレンス 2015. 6. 29

- ・「急性期内頸動脈閉塞に対して血栓除去およびステント留置術を施行した一例」

深澤恵児

- ・「視床膠芽腫の一例」

岡田健、亀井裕介、深澤恵児

●第 18 回日本臨床脳神経外科学会 2015. 7. 18～19 神戸市

「対側からの Pterional approach にてクリッピング術を施行した Carotid cave aneurysm の 2 例」

亀井裕介

●第 16 回三重大阪脊椎脊髄外科シンポジウム 2015. 7. 31 ホテルグリーンパーク津

「骨棘による腰椎椎間孔狭窄症の治療経験」

亀井裕介、深澤恵児、岡田健、田代晴彦

●第 16 回脳神経セミナー 2015. 9. 4 四日市

「脳卒中の初期対応 ～当直から翌朝までをどう乗り切るか？～」

岡田健

●第 89 回日本脳神経外科学会 中部支部会 2015. 9. 12 名古屋

「当センター 2 年間で経験した突発性脊髄硬膜外血腫の 4 例」

岡田健、深澤恵児、亀井裕介、田代晴彦

●第 2 回三重脳卒中フォーラム 2015. 10. 30 ホテルグリーンパーク津

- ・「脳出血における抗凝固薬、抗血小板薬内服と臨床的経験の関係」

岡田健、亀井裕介、深澤恵児、田代晴彦、石川達哉

- ・「椎骨紡錘状動脈瘤に対する Flow alteration treatment の 1 例」

種村浩、石田藤麿、亀井裕介、芝真人、霜坂辰一

●Trevo Clinical update in mie 2015. 10. 4

「内頸動脈閉塞に対する緊急 CAS 後にステント内閉塞を来した 1 例」

深澤恵児、亀井裕介、三浦洋一、岡田健、田代晴彦

●三重脳卒中連携の会 2015. 10. 21

「右大脳皮質下出血による左片麻痺と高次脳機能障害を呈した症例」

深澤恵児

●第 31 回日本脳神経血管内治療学会 2015. 11. 19～21 岡山

「Solitaire による再開通に続き緊急頸動脈ステント留置術を施行するも、急性期にステント内閉塞を来した内頸動脈完全閉塞の 1 例」

深澤恵児、亀井裕介、三浦洋一、岡田健、田代晴彦

- 第 25 回三重大学脳神経外科同門会 2015. 12. 12 ホテルグリーンパーク津
 - ・「当院における急性期脳血管再開通療法の現状」
深澤恵児、亀井裕介、三浦洋一、岡田健、田代晴彦
 - ・「90 歳以上の超高齢者の慢性硬膜下血腫における治療意義」
岡田健、亀井裕介、深澤恵児、田代晴彦
 - ・「破裂急性期にステント併用コイル塞栓術を施行した両側椎骨動脈瘤の 1 例」
三浦洋一、当麻直樹、寺島美生、石田藤麿、亀井裕介、荒木朋浩、霜坂辰一、金丸憲司

小児科

<学会・研究会発表>

- 第 263 回日本小児科学会東海地方会 2015. 2. 1
「HHV-6 脳炎脳症の 1 例」
北村 創矢
- 第 264 回日本小児科学会東海地方会 2015. 5. 10
「パルボウイルス B19 による家族内感染で無形成発作を呈し重症貧血に至った遺伝性球状赤血球症の母子例」
神谷 雄作
- 第 265 回日本小児科学会東海地方会 2015. 11. 8
「当院でリンパ球刺激試験 (ALST) により新生児乳児消化管アレルギーと診断した 19 症例のまとめ」
安田 泰明
- 第 51 回中部日本小児科学会 2015. 8. 23
「眼振を契機に診断に至った Pelizaeus Merzbacher 病の 10 ヶ月男児例」
奥田 太郎
- 第 380 回北勢地区小児臨床懇話会 2015. 3. 11
「持続する嘔吐から頻回の痙攣を認めた一例」
山田 慎吾
- 第 382 回 北勢地区小児臨床懇話会 2015. 5. 13
「ALST による新生児・乳児消化管アレルギーの診断例」
安田 泰明
- 第 386 回 北勢地区小児臨床懇話会 2015. 10. 14
「ショック症状を契機に先天性門脈欠損症を認めた 4 歳女児例」
神谷 雄作

●第 388 回 北勢地区小児臨床懇話会 2015.12.10

「乳児期早期に呼吸不全で人工呼吸管理を要し百日咳と診断した 3 症例」

丹羽 香央里

産婦人科

<学会発表>

●第 135 回東海産科婦人科学会 2015.2.21 名古屋

- ・「ヘパシマブ併用化学療法中に直腸腔、皮膚瘻を発症した卵巣癌の 1 例」

徳山智和、田中浩彦、秋山登、高倉翔、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

- ・「子宮体癌治療後の経過観察中に全身リンパ節腫大をきたした 1 例」

高倉翔、田中浩彦、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第 67 回日本産科婦人科学会 2015.4.9 横浜

- ・「ヘパシマブ併用卵巣癌化学療法中に骨盤内から皮膚に瘻孔を来たした 1 例」

徳山智和、谷口晴記、秋山登、高倉翔、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、小林良成、田中浩彦、朝倉徹夫、谷口晴記

- ・「当科における HIV 感染合併手術症例について」

谷口晴記、田中浩彦、高倉翔、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、小林良成、朝倉徹夫

●第 32 回産婦人科感染症学会 2015.5.23 宇都宮

「ウイルス量の十分な低下を認めなかった HIV 帝王切開例について」

谷口晴記、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、小林良成、田中浩彦、朝倉徹夫、森尚義、高倉翔

●第 57 回日本婦人科腫瘍学会 2015.8.7 盛岡

「短期間に再発を繰り返した未分化子宮内筋肉腫に対して pazopanib が奏功した 1 例」

小林良成、田中浩彦、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

●第 55 回日本産科婦人科内視鏡学会 2015.9.10 横浜

- ・「腹腔鏡下広汎子宮全摘術中に発生した外腸骨動脈損傷に対し腹腔鏡下に修復し得た 1 例」

高倉翔、田中浩彦、秋山登、徳山智和、大内由貴、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、本橋卓、近藤英司、池田智明

- ・「当科における早期子宮頸がんに対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術の導入」

小林良成、田中浩彦、徳山智和、秋山登、大内由貴、南結、中野譲子、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、本橋卓、近藤英司

●第16回東海産婦人科内視鏡手術研究会 2015.10.10 名古屋

- ・「子宮内膜症との鑑別を要し、腹腔鏡下に摘出した直腸後腔における Developmental cyst の2例」

小田日東美、田中浩彦、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記

- ・「CIN3・微小浸潤癌に対して腹腔鏡と開腹単純子宮全摘術の比較検討」

井澤美穂、田中浩彦、秋山登、徳山智和、南結、中野譲子、小林良成、朝倉徹夫、谷口晴記、本橋卓

- ・「婦人科悪性疾患リンパ節摘出術における Internal Organ Retractor の使用経験」

徳山智和、田中浩彦、秋山登、南結、中野譲子、小林良成、井澤美穂、朝倉徹夫、谷口晴記、小田日東美、千田時弘、本橋卓

<講演>

●平成27年東海連合会細胞診基礎講習会 2015.6.21 名古屋

「子宮頸部細胞診（腫瘍）」

田中浩彦

●第8回東海ディナゲスト研究会 2015.11.21 名古屋

「ジェノゲストの臨床評価 -長期使用例を中心に-」

田中浩彦

<論文>

- Kobayashi Y, Miyoshi T, Matsuyama TA, Miyauchi J, Miyashita T, Ishibashi-Ueda H, Yoshimatsu J. : 1)

Mirror syndrome associated with fetal transient abnormal myelopoiesis in Down syndrome. Pathol Int. 2015 Aug;65(8):443-5

- 腹腔鏡下子宮筋腫核出術のその後の妊娠に与える影響についての検討

小林良成、田中浩彦、中野譲子、朝倉徹夫、谷口晴記

周産期新生児誌 2015; 51 (3) 1051-1055

- 腹腔鏡下に診断、治療し得た卵管捻転の二例

徳山智和、田中浩彦、谷口晴記

東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌 2015; 3 103-107

整形外科

<学会発表>

- 第124回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2015.4.10~11 金沢市

「TKA において脛骨コンポーネントの設置位置向上のための工夫 従来法 vs. PSI vs. ポータブルナビゲーション」

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹

●第 45 回日本人工関節学会 2015. 2. 27～28 福岡市

「Portable navigation device (Knee Align2) を用いた人工膝関節全置換術の術後アライメント評価」

岡村直樹、北尾淳、森本剛司、奥山典孝

●7th JOSKAS 2015. 6. 18～20 札幌市

・「膝関節軟骨損傷に対する自家培養軟骨ジャック®移植後の術後 6 ヶ月、1 年での鏡視所見」

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹

・「同時に自家軟骨培養手術、高位脛骨骨切り術、自家骨軟骨柱移植術を施行した 1 例」

岡村直樹、北尾淳、森本剛司、奥山典孝

・「反復性膝蓋骨脱臼及び外反膝を伴った大腿骨外顆軟骨損傷に対し大腿骨遠位骨切り術を施行した 1 例」

森本剛司、北尾淳、奥山典孝、岡村直樹

●第 125 回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2015. 10. 2～3 名古屋市

「前十字靱帯損傷に伴う大腿骨外顆陥凹型軟骨下骨骨折の一例」

奥山典孝、北尾淳、森本剛司、岡村直樹

<論文発表>

●大腿骨滑車部軟骨損傷に対する自家培養軟骨細胞移植術手技の工夫

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、鈴木慶亮

JOSKAS 40 巻 2 号 Page406-407 2015. 04 発行

●サルコイドーシス関節症に TKA を行った 1 例

奥山典孝、北尾淳、森本剛司、岡村直樹、鈴木慶亮

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 58 巻 2 号 Page365-366 2015. 03 発行

●TKA において脛骨コンポーネントの設置位置向上のための工夫 従来法 vs. PSI vs. ポータブルナビゲーション

北尾淳、森本剛司、奥山典孝、岡村直樹

中部日本整形外科災害外科学会雑誌 58 巻 5 号 Page1051-1052 2015. 09 発行

●Portable navigation device (KneeAlign 2) を用いた人工膝関節全置換術の術後アライメント評価

岡村直樹、北尾淳、森本剛司、奥山典孝

日本人工関節学会誌 45 巻 Page313-314 2015. 12 発行

●当院における Knee Align 2 を用いた人工膝関節全置換術のコンポーネント設置角精度と工夫

皮膚科

<学会発表>

- 第 30 回角化症研究会 2015.8.1 経団連会館 2 階 経団連ホール

「次世代シーケンス解析で診断に至った重症ネザートン症候群の 1 例」

加古智子 (三重県立総合医療センター皮膚科)、伊藤雄彦 (三重中央医療センター小児科)、
鈴木尚史 (三重大学小児科)、櫻井直人、杉山謙二 (三重県立総合医療センター小児科)、山
西清文 (兵庫医科大学皮膚科)

泌尿器科

<学会・研究会発表>

- 第 103 回日本泌尿器科学会総会 2015.4.19

「膀胱癌 plasmacytoid carcinoma の 2 例」

荒瀬栄樹、鈴木竜一、荒木富雄

- 第 58 回三重泌尿器科医会 2015.1.25

「三重県立総合医療センター泌尿器科における 2014 年手術統計」

松浦浩、堀靖英、栃木宏水

眼科

<論文発表>

- Sasoh M, Mizutani H, Matsubara H, Furuta M, Matsui Y, Yamanaka K, Kondo M.

Incidence of retinal detachment associated with atopic dermatitis in Japan: review of cases from
1992 to 2011.

Clin Ophthalmol. 2015 Jun 23;9:1129-34.

麻酔科

<学会・研究会発表>

- 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第 13 回学術集会 2015.9.5

「エアウェイスコップ (AWS) を用いたダブルルーメンチューブ (DLT) の挿管」

坂本正、川端広憲、笹邊萌絵、庄村千恵子、古橋一壽

- 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第 13 回学術集会 2015.9.5

「腹部巨大腫瘍摘出術の麻酔経験」

坂本正、川端広憲、笹邊萌絵、庄村千恵子、古橋一壽

耳鼻咽喉科

<学会・研究会発表>

- 平成 27 年度三重県地方部会総会・学術集会 2015. 4. 12

「当科における穿刺吸引細胞診結果の検討」

鈴木恵理

- 第 80 回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会 2015. 6. 20～21

「入浴または浴室にて発症した救急疾患の検討」

鈴木恵理、出口晃、美和千尋、森康則

看護部

<学会・研究会発表>

- 第 64 回東海ストーマ・排泄リハビリテーション研究会 2015. 6. 13

「難治性腸瘻とともに生活していく患者の、自分の力に気付かせる関わり

～マーガレット・ニューマンのモデルを用いて～」

有村葵、酒井美紀子、灘波浩子、林恵里

- 第 57 回日本手術看護学会 東海地区 2015. 11. 7

「婦人科腹腔鏡手術後の肩痛の要因に関する研究」

山下知子・藤田奈緒美

- 第 74 回日本公衆衛生学会 2015. 11. 6

「介護者の悲嘆感情に影響する要因」

岡村雄飛、秋山明子

- 第 33 回日本神経治療学会総会 2015. 11. 27

「嚥下チーム結成までの経緯と現状」

寺西紘子

<執筆>

- 特集「フィジカルアセスメント・看護技術スキル」 アップデート 呼吸器

松野 薫

こどもケア 2015.4・5月号 日総研

- トピックス 「全国男性看護師会の活動と今後の展開」

前田貴彦、辻本雄大、藤本泰博、平田研人、上杉佑也、伊藤大輔、福田豊洋

看護管理 Vol 25. No 8 医学書院

- 看護研究「脳卒中後遺症による意思疎通困難 患者の食べる意欲についての一考察

～摂食・嚥下訓練中に示したしぐさを振り返って～」

服部節子、川島珠美

ブレインナーシング 第31巻11号

●第1章 クリティカルケア領域の看護ケア 3. 呼吸管理 D. 気道確保と管理 気管吸引

太田美佳

ICUナースポケットブック

中央放射線部

<学会発表>

●東海腹部造影エコー研究会 2015. 6. 20

「造影超音波が有用であった肝細胞癌の1例」

安本浩二

●日本超音波医学会中部地方会 2015. 9. 6

「SMIを用いた胆嚢動脈血流の描出について」

安本浩二

●日本放射線技術学会 秋季大会 2015. 10. 8

「位置決め画像を用いた腸管内造影剤による高吸収アーチファクト発生予測の検討」

(位置決め画像の濃度値とCT値の関係)

恒川和弘

●三重県診療放射線技師学会 2015. 11. 29

「位置決め画像の濃度値と腸管造影剤のCT値の関係についての基礎的検討」

(高吸収アーチファクト発生の事前予測に向けて)

恒川和弘

●第31回日本診療放射線技師学会 2015. 11. 21

「チーム改革カフェ 1+1=5にする方法」

寺西 良太

●JSS 中部第23回地方会学術集会 2015. 11. 8

・「Micro Pureにおける腎結石描出率の検討」

寺西 良太

・「肺動脈弁に疣贅を認めた感染性心内膜炎の一例」

三谷圭子

<講演>

●MMC内科総合セミナー 2015. 4. 28

「実践！明日から役立つ腹部エコー」

安本浩二

●中部超音波フォーラム 2015. 6. 21

「胆道系の超音波」

安本浩二

●中部超音波フォーラム 2015. 7. 12

「胆道系の超音波」

安本浩二

●中部超音波フォーラム 2015. 10. 25

「胆道系の超音波」

安本浩二

●中部超音波フォーラム 2015. 11. 29

「頸動脈」

安本浩二

●消化器がん検診学会 超音波部会 2015. 9. 12

「超音波画像でここをチェックしよう超音波判定マニュアルを完全理解 胆道」

安本浩二

中央検査部

<学会・研究会発表>

●第 17 回微生物カンファレンス 2015. 1. 17 ミッドランドスクエア

「症例 4：デング熱」

海住博之、高羽桂

●平成 26 年度 第 3 回臨床微生物部門勉強会 2015. 2. 7 尾鷲総合病院

「 β ラクタマーゼ検査法について」

海住博之

●第 25 回中部圏支部生理検査研修会 2015. 2. 8 三重県総合文化センター

「ここを押さえよう NCS のツボ」

坂下文康

●平成 26 年度 第 4 回臨床微生物部門勉強会 2015. 3. 13 三重県総合文化センター

「血液培養の基礎知識」

海住博之

- 第 89 回日本感染症学会総会 2015. 4. 16～17 国立京都国際会館
「当院における血液培養検査状況について」
高羽桂、海住博之、森尚義、岡本真一、前田光、油田尚総

- 第 25 回アリーアフェア 2015. 4. 25 TKP 名古屋栄カンファレンスセンター
「私の経験 4： *S. pneumoniae* と *H. influenzae* の混合感染肺炎」
高羽桂

- 東海ディメンジョンユーザー会 2015. 6. 20 名古屋国際ビルセンター
「防災拠点病院としての検査室の取り組み - EXL200 の活用方法 - 」
廣森真哉

- 三重県臨床検査技師会 第 2 回神経生理勉強会 2015. 7. 16 松阪市民病院
「神経伝導検査 - 絞扼性障害の症例を中心に - 」
坂下文康

- 平成 27 年度 第 54 回中部圏支部医学検査学会 2015. 9. 26～27
静岡県コンベンションアーツセンター
・病理部門企画「人材育成について」
小倉昌弘
・臨床微生物部門企画「グラム染色症例： *Pseudomonas aeruginosa*」
海住博之

- 平成 27 年度 第 2 回臨床微生物部門勉強会 2015. 10. 21
「呼吸器感染症症例を考える（症例提示）」
海住博之

- 第 17 回東海病原微生物研究会 H27. 10. 24 ミッドランドスクエア
「ケース 1： C02 要求性 *Escherichia coli* の検出例」
海住博之

- 第 38 回三重医学検査学会 2015. 11. 1 鈴鹿医療科学大学
「当院における抗酸菌検査状況」
秦由佳、高羽桂、東薫、高橋あけみ、海住博之

- 第 38 回三重医学検査学会 2015. 11. 1 鈴鹿医療科学大学
「腹膜癌の 1 例」
柴田瞳、小倉昌弘、佐藤翼、田中浩彦

- 第 45 回日本臨床神経生理学会学術大会 2015. 11. 6 大阪国際会議場
「神経生理検査に関わる技術師の役割と判読医」

坂下文康

●第54回日本臨床細胞学会 秋期大会 H27.11.21 名古屋国際会議場

「乳腺筋上皮癌の1例」

小倉昌弘、柴田瞳

●中部地区宿泊研修会 2015.11.29～30 三重大学医学部付属病院

「アンチバイオグラムについて」

高羽桂、永田恵一

●平成27年度 三重県臨床検査精度管理調査報告会 2015.12.6. 三重県総合文化センター

「神経伝導検査」

坂下文康

《論文・執筆》

●乳幼児の皮下膿瘍から *Mycobacterium bovis* BCG が分離された1症例

東薫、海住博之、高羽桂、西森久史、前田伸司

・MSSA か MRSA の判定に苦慮した *S. aureus* の1例

海住博之、東薫、高羽桂、別所裕二

三重県臨床検査技師学会誌 2015 Vol.38

●Emergence and prevention measures for multidrug resistant *Pseudomonas aeruginosa* in catheter-associated urinary tract infection in spinal cord injury patients.

Katsumi Shigemura , Rieko Takase , Kayo Osawa , Kei Takaba , Masashi Nomi ,

Masato Fujisawa , Soichi Arakawa

Spinal Cord 2015 Jan;53(1):70-4

●薬剤耐性菌検出のために臨床検査室が実施すべき検査法

中村明子、海住博之

THE CHEMICAL TIMES 2016 No.1

<著書>

●神経伝導検査の対象となる代表的疾患

坂下文康

神経生理検査技術教本：187-192, 2015. 日本臨床衛生検査技師会

●多発性神経障害

坂下文康

神経生理検査症例集：46-58, 2015. 日本臨床衛生検査技師会

薬剤部

<学会発表>

●第 29 回三重服薬研究会 2015. 8. 28 四日市

「高齢者薬物療法の利益衡量」

森尚義

●日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2015 2015. 11. 1 名古屋

「C 型慢性肝炎におけるダクラタスビル・アスナプレビル併用療法の有効性と安全性」

中道翔子、日沖雅人、高瀬幸次郎

●日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2015 2015. 11. 1 名古屋

「HIV 母子感染予防対策における抗 HIV 療法の有効性と安全性」

田中初奈、森尚義、杉山謙二、谷口晴記

●第 25 回日本医療薬学会年会 2015. 11. 23 横浜

「C 型慢性肝炎に対する新旧 3 剤併用療法の有効性と安全性」

森尚義、森谷勲

●第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会 2015. 11. 30 東京

「Raltegravir と Lopinavir/Ritonavir による NRTI-sparing が著効した多剤耐性の 1 例」

森尚義、谷口晴記

<講演・シンポジウム>

●東海地区 HIV セミナー 2015. 6. 28 名古屋

「外国人患者に対する HIV 治療の課題」

森尚義

●日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2015 HIV 感染症シンポジウム「HIV 感染症を知ろう！」 2015. 11. 1 名古屋

「日和見感染症」

森尚義

<論文>

●Ritonavir-boosted Atazanavir が被疑薬と考えられる遷延性血清クレアチニン上昇の 1 例

森尚義、谷口晴記

日本エイズ学会誌、第 17 巻、第 1 号、25-29、2015.

●モンテカルロ・シミュレーションを用いたバレニクリン酒石酸塩の腎機能及び体重に応じた投与量の検討

林雅彦、八重徹司、柴田和彦、三輪高市、森尚義、大井一弥、平田純生

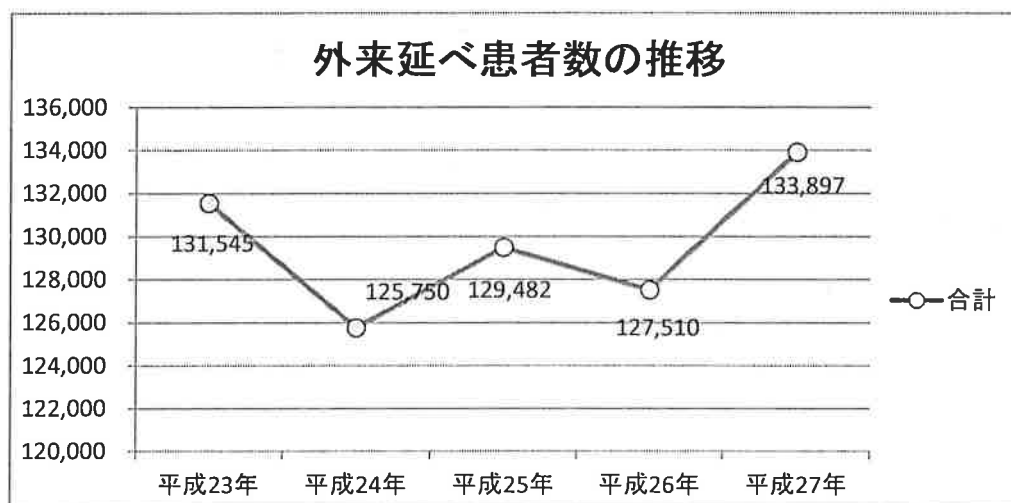
日本腎臓病薬物療法学会誌、第4巻、第1号、3-8、2015.

4. 統計データ

(1) 患者統計

《診療科別外来延べ患者数》

科	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
内 科	6,426	6,811	6,083	6,036	6,012
外 科	12,105	12,322	13,665	13,471	13,353
心臓血管外科	1,561	1,492	1,336	1,178	1,144
脳神経外科	6,217	5,628	5,344	5,129	5,134
小 児 科	15,018	16,733	16,478	16,027	16,949
産 婦 人 科	14,806	16,128	17,108	17,187	17,658
整 形 外 科	12,220	10,845	10,783	10,471	10,599
リ ハ 科	1	0	0	0	0
皮 膚 科	5,394	2,755	5,243	5,556	6,554
泌 尿 器 科	6,915	6,274	6,325	6,693	7,555
眼 科	0	0	1,062	1,698	1,905
耳 鼻 咽 喉 科	3,569	1,322	1,726	1,970	4,327
精 神 科	5,139	4,619	4,150	3,897	3,584
放 射 線 科	2,234	726	0	0	0
神 経 内 科	4,071	4,208	3,912	3,484	3,654
循 環 器 内 科	11,769	10,925	10,656	10,120	9,565
呼 吸 器 内 科	11,060	10,396	9,848	10,118	10,889
消 化 器 内 科	12,587	11,783	12,100	10,961	11,631
呼 吸 外 科	453	311	457	442	342
放射線診断科	0	737	1,134	1,199	1,562
放射線治療科	0	1,735	2,072	1,873	1,480
合 計	131,545	125,750	129,482	127,510	133,897



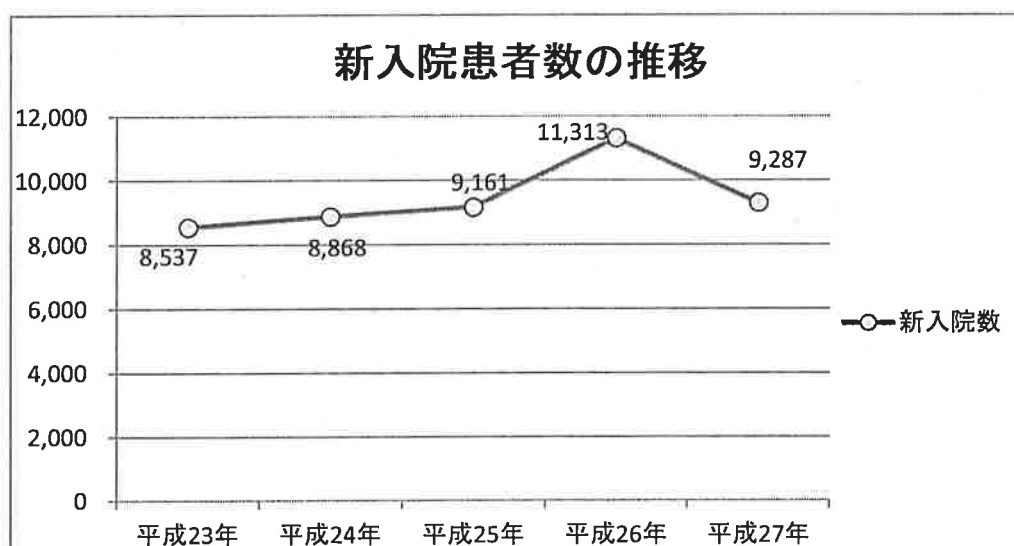
《診療科別入院延べ患者数》

科	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
内 科	0	15	0	0	0
外 科	15,514	14,236	15,887	15,652	16,458
心臓血管外科	3,137	3,252	3,207	2,298	2,479
脳神経外科	9,886	10,452	10,801	11,172	10,446
小 児 科	12,141	12,637	11,210	12,567	12,585
産 婦 人 科	11,259	11,745	11,937	13,210	13,218
整 形 外 科	12,028	12,064	12,154	12,493	11,998
皮 膚 科	413	210	422	363	524
泌 尿 器 科	3,027	2,774	2,218	2,351	2,485
眼 科	0	0	6	3	7
耳鼻咽喉科	49	0	0	92	390
精 神 科	0	0	0	0	0
放 射 線 科	0	0	0	0	0
神 経 内 科	5,063	5,084	5,051	6,048	6,558
循環器内科	7,497	7,459	7,623	7,473	8,515
呼吸器内科	15,334	16,928	18,007	18,280	16,393
消化器内科	9,409	9,886	9,874	8,480	8,408
呼 吸 外 科	1,496	1,819	1,599	1,424	1,438
放射線診断科	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	0	0	0
合 計	106,253	108,561	109,996	111,906	111,902



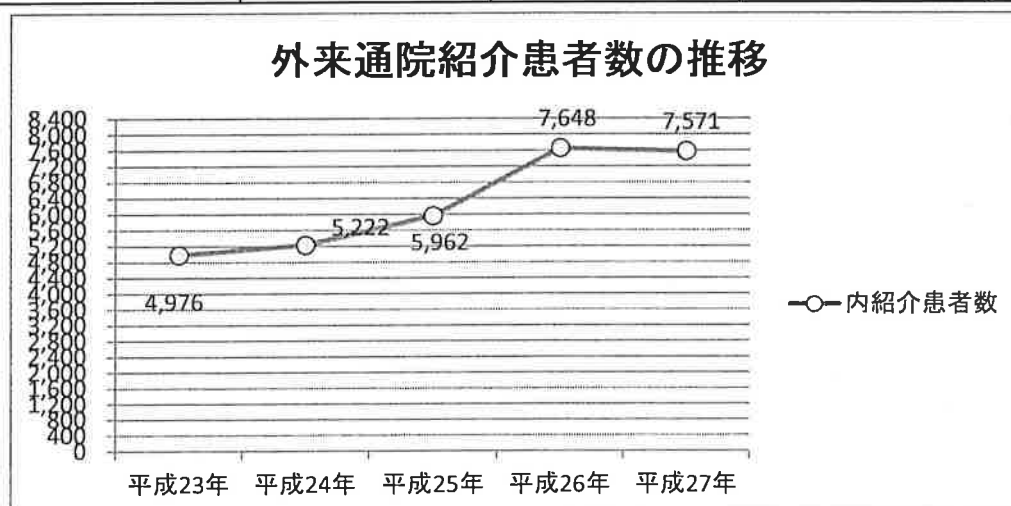
《入退院状況》

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
新入院数	8,537	8,868	9,161	11,313	9,287
内紹介入院数	958	1,394	1,254	2,013	1,368
内救急入院数	2,285	3,351	3,557	4,235	3,538
転科入院数	310	257	260	316	282
退院数	8,505	8,915	9,134	11,259	9,282
内死亡退院数	502	455	465	551	448
転科退院数	310	257	260	316	282
平均在院日数	12.5	12.2	12.0	12.5	12.1



《外来通院状況》

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
初診数	18,594	20,232	20,335	24,137	20,815
内紹介患者数	4,976	5,222	5,962	7,648	7,571
内救急患者数	10,175	11,591	10,919	12,276	9,779
平均通院日数	7.2	6.2	6.4	6.7	6.4



(2)病歴管理室統計

疾病別・診療科別・性別・退院患者数(ICD10小分類)

(H27.1.1~H27.12.31)

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
		総計	18882	0	2587	184	815	3583	2252	1441	73	576	2	80	0	0	0	1071	2304	2583	1888	285
c-0101	原因の明示された腸管感染症	男	88	0	0	0	0	73	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	5	4	0
		女	85	0	2	0	0	51	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	4	1	0
c-0102	感染症と推定される下痢及び胃腸炎	男	98	0	8	0	0	69	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	2	8	10	0
		女	86	0	11	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	13	10	0
c-0103	呼吸器結核	男	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	1	2
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
c-0104	その他の結核	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0105	百日咳	男	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	12	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0108	敗血症	男	73	0	4	1	1	8	0	2	0	7	0	0	0	0	0	4	8	28	11	0
		女	72	0	8	0	0	7	3	1	1	2	0	0	0	0	0	7	7	25	11	0
c-0107	その他の細菌性疾患	男	48	0	2	0	0	20	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	15	5	1
		女	84	0	0	0	0	22	8	0	2	1	0	0	0	0	0	2	2	17	3	8
c-0109	淋菌感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0110	主として性的伝播様式をとるその他の感染症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0111	ヘルペスウイルス感染症	男	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0112	水痘	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0113	帯状疱疹	男	10	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0
		女	13	0	1	0	0	0	1	0	7	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0
c-0116	皮膚及び粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患	男	20	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	19	0	0	0	0	18	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0117	B型肝炎	男	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	14	0
		女	9	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0
c-0118	C型肝炎	男	30	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	23	1
		女	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0
c-0119	その他のウイルス肝炎	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0120	ヒト免疫不全ウイルス(HIV)病	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
c-0121	ムンプス	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0122	その他のウイルス疾患	男	32	0	1	0	0	26	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0
		女	29	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0124	カンジダ症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
c-0125	その他の真菌症	男	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1
		女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	2
c-0126	結核の続発・後遺症	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0127	その他の感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
c-0128	その他の感染症及び寄生虫症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		女	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
c-0201	口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-0202	食道の悪性新生物	男	37	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
c-0203	胃の悪性新生物	男	158	0	101	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	45	3
		女	57	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	8	0
c-0204	結腸の悪性新生物	男	110	0	78	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2	4	22	1
		女	86	0	64	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	18	0
c-0205	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	男	41	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1
		女	21	0	15	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0
c-0207	肝及び肝内胆管の悪性新生物	男	88	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	60	0
		女	37	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0
c-0208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	男	32	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23	0
		女	25	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0
c-0209	脾の悪性新生物	男	20	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	11	0
		女	28	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	24	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
e-0210	その他の消化器の悪性新生物	男	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0212	気管、気管支及び肺の悪性新生物	男	311	0	1	1	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	268	0	36
		女	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	84	1	18
e-0214	骨及び関節軟骨の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
e-0217	中皮及び軟部組織の悪性新生物	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	2
		女	36	0	1	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1
e-0218	乳房の悪性新生物	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	78	0	82	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4	3
e-0219	子宮頸(部)の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	64	0	3	0	0	0	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	6
e-0220	子宮体(部)の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	121	0	4	0	0	0	115	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
e-0222	卵巣の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	95	0	13	0	0	0	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	6
e-0223	その他の女性生殖器官の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0224	前立腺の悪性新生物	男	108	0	0	0	0	0	0	0	0	89	0	0	0	0	0	3	4	4	6	2
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0225	その他の男性生殖器官の悪性新生物	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0226	腎及び腎盂の悪性新生物	男	12	0	1	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
e-0227	膀胱の悪性新生物	男	122	0	1	0	0	0	0	0	0	113	0	0	0	0	0	0	3	3	1	1
		女	22	0	1	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0228	その他の尿路の悪性新生物	男	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0230	中枢神経系の悪性新生物	男	8	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
e-0231	甲状腺の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0233	非ホジキンリンパ腫	男	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0
		女	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
e-0234	白血病	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0235	その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0236	その他の悪性新生物	男	348	0	108	0	4	0	0	0	1	41	0	0	0	0	0	4	5	134	45	7
		女	322	0	154	0	1	0	72	0	0	7	0	0	0	0	0	1	2	53	22	10
e-0237	子宮頸(部)の上皮内癌	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	22	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0238	その他の上皮内新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0241	子宮平滑筋腫	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	226	0	0	0	0	0	224	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
e-0242	卵巣の良性新生物	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	109	0	1	0	0	0	108	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
e-0244	中枢神経系のその他の新生物	男	17	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
		女	6	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
e-0245	その他の新生物	男	92	0	10	0	1	1	0	4	0	2	0	1	0	0	0	2	0	3	65	3
		女	131	0	13	0	1	4	62	2	0	2	0	0	0	0	0	1	3	1	37	5
e-0301	鉄欠乏性貧血	男	39	0	1	0	0	7	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	3	21	2
		女	44	0	3	0	0	1	15	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	4	12	1
e-0302	その他の貧血	男	33	0	4	0	0	5	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	7	6	4	1
		女	32	0	9	0	0	2	6	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4	1	6	0
e-0303	出血性の病態並びにその他の血液及び造血系の疾患	男	65	0	12	1	0	19	0	0	0	3	0	0	0	0	0	2	6	21	1	0
		女	81	0	15	0	0	16	37	0	1	0	0	0	0	0	0	2	4	5	0	1
e-0304	免疫機構の障害	男	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	11	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0
e-0401	甲状腺中毒症	男	5	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0
e-0402	甲状腺炎	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0

コード	病 名	性 別	総 数	内 科	外 科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
o-0403	その他の甲状腺障害	男	16	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	1	0
		女	15	0	2	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0
o-0404	インスリン依存性糖尿病	男	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		女	12	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
o-0405	インスリン非依存性糖尿病	男	194	0	9	2	2	1	0	3	0	4	0	0	0	0	0	29	79	32	31	2
		女	141	0	6	0	0	0	10	3	0	1	0	0	0	0	0	20	47	23	29	2
o-0406	その他の糖尿病	男	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10	1	3	0
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	2	0
o-0407	膵臓機能障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0408	栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	男	7	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
		女	8	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0
o-0409	肥満(症)	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	4	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
o-0410	高血圧症	男	119	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	90	3	7	0
		女	67	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	50	2	3	6
o-0411	体液量減少(症)	男	55	0	9	0	0	24	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	6	6	6	0
		女	39	0	1	0	0	13	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	9	9	1	0
o-0412	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	男	141	0	20	0	1	42	0	2	0	1	0	0	0	0	0	9	24	27	12	3
		女	137	0	8	0	0	49	8	2	0	0	0	0	0	0	0	8	31	25	8	0
o-0501	血管性及び詳細不明の認知症	男	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	1	1
		女	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
o-0502	アルコール使用<飲酒>による精神及び行動の障害	男	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3	0
		女	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
o-0503	その他の精神作用物質使用による精神及び行動の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0504	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
		女	9	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	2	0
o-0505	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	2	0
		女	12	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	5	0	0
o-0506	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	13	0	3	0	0	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0
o-0507	知的障害<精神遅滞>	男	5	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0508	その他の精神及び行動の障害	男	11	0	2	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1
		女	18	0	7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	0
o-0601	膵臓炎	男	18	0	0	0	1	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0
		女	5	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
o-0602	中枢神経系の炎症性疾患	男	7	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
o-0603	腎臓性筋萎縮症及び関連症候群	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
o-0604	パーキンソン病	男	18	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10	3	0	3	0
		女	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	2	0
o-0605	アルツハイマー病	男	8	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0
		女	12	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	0	2	0
o-0606	多発性硬化症	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
o-0607	てんかん	男	79	0	2	0	9	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	4	3	2	0
		女	69	0	1	0	3	32	2	0	0	0	0	0	0	0	0	21	1	5	4	0
o-0608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	男	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0609	一過性脳虚血発作及び関連症候群	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	1	0	0
o-0610	睡眠障害	男	10	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	3	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
o-0611	神経、神経根及び神経そうの障害	男	20	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	11	0	3	0	0
		女	12	0	1	0	0	1	0	3	1	0	0	2	0	0	0	2	0	2	0	0
o-0612	痙性麻痺及びその他の麻痺性症候群	男	27	0	0	0	2	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	14	2	2	1	0
		女	15	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0
o-0613	自律神経系の障害	男	6	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
o-0614	その他の神経系の疾患	男	55	0	1	4	14	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	18	1	6	2	0
		女	47	0	0	1	21	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	11	4	2	2	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
o-0701	麦粒腫及びびらん粒腫	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0703	結膜炎	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0705	白内障	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0707	網膜血管閉塞症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0708	緑内障	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0709	斜視	男	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0
		女	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
o-0710	屈折及び調節の障害	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0712	その他の眼及び付属器の疾患	男	61	0	1	0	2	47	0	0	0	0	1	0	0	0	0	9	1	0	0	0
		女	58	0	0	0	1	45	1	0	0	0	1	0	0	0	0	7	3	0	0	0
o-0801	外耳炎	男	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0802	耳垢栓塞	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0804	中耳炎	男	25	0	0	0	0	24	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	19	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0808	その他の中耳及び乳突炎の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0811	その他の内耳疾患	男	16	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5	0	0	0	2	2	2	2	0
		女	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	3	4	6	1	0
o-0812	難聴	男	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
o-0901	本態性(原発性)高血圧(症)	男	227	0	3	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	44	120	19	37	0
		女	144	0	1	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	36	78	9	15	0
o-0902	高血圧性心疾患	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
o-0905	二次性高血圧症	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
o-0906	狭心症	男	243	0	0	20	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	214	1	4	1
		女	75	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	68	2	2	0
o-0907	急性心筋梗塞	男	46	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	40	3	1	0
		女	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	12	2	0	0
o-0908	冠動脈硬化症	男	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
o-0909	陳旧性心筋梗塞	男	85	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	72	1	2	0
		女	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	1	0
o-0910	その他の虚血性心疾患	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	0
		女	9	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	1	0
o-0911	慢性リウマチ性心疾患	男	5	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	8	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0
o-0912	慢性非リウマチ性心臓疾患	男	42	0	0	17	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	18	2	2	0
		女	41	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	31	0	1	0
o-0913	心筋症	男	13	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	1	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
o-0914	不整脈及び伝導障害	男	228	0	9	12	5	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	30	111	32	19	4
		女	171	0	8	0	0	8	3	1	0	1	0	0	0	0	0	21	90	22	18	0
o-0915	心不全	男	203	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	127	58	5	0
		女	153	0	4	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	6	98	23	6	1
o-0916	その他の心疾患	男	22	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	11	7	0	0
		女	21	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14	1	1	0
o-0917	くも膜下出血	男	9	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		女	20	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0
o-0918	脳内出血	男	67	0	1	0	38	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	2	4	13	0
		女	65	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5	1	7	0
o-0919	脳梗塞	男	183	0	6	0	21	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	119	7	14	10	1
		女	124	0	4	2	8	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	80	12	5	10	0
o-0920	脳動脈硬化(症)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
e-0921	その他の脳血管疾患	男	82	0	1	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	2	1	4	0
		女	58	0	1	0	27	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	3	1	2	0
e-0922	肺塞栓症	男	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	2	2	0
		女	8	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
e-0923	動脈硬化(症)	男	33	0	0	11	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	18	1	2	0
		女	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
e-0924	大動脈瘤及び解離	男	55	0	1	16	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	32	1	2	1
		女	24	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	1	0
e-0926	動脈の塞栓症及び血栓症	男	9	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0
		女	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
e-0927	その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	男	12	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0
		女	6	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0
e-0928	静脈炎、血栓(性)静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	男	12	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	7	0	1	0
		女	23	0	3	0	0	0	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	2	0
e-0929	下肢の静脈瘤	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0930	痔核	男	7	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
		女	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0931	食道静脈瘤	男	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0
		女	11	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0
e-0932	低血圧(症)	男	7	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-0933	その他の循環器系の疾患	男	6	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0
		女	7	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
e-1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]＜感冒＞	男	6	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	10	0	1	0	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
e-1002	急性副鼻腔炎	男	10	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
e-1003	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	男	75	0	0	0	0	67	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	1	3	0	0
		女	48	0	0	0	0	46	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1004	急性喉頭炎及び気管炎	男	7	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1005	その他の急性上気道感染症	男	60	0	0	0	0	40	0	0	0	0	0	10	0	0	0	1	2	5	2	0
		女	42	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	1	2	1	0
e-1008	インフルエンザ	男	39	0	0	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	7	0	0
		女	25	0	0	0	0	18	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0
e-1007	肺炎	男	385	0	8	1	5	116	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10	33	196	16	6
		女	221	0	4	2	2	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	8	84	15	3
e-1008	急性気管支炎	男	214	0	2	0	0	198	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0
		女	180	0	1	0	0	166	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	10	1	0
e-1009	急性細気管支炎	男	10	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
e-1010	アレルギー性鼻炎	男	13	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1011	慢性副鼻腔炎	男	7	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
		女	8	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
e-1012	その他の鼻及び副鼻腔の疾患	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1013	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	男	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1014	その他の上気道の疾患	男	21	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	12	0	0	0	2	2	2	0	0
		女	13	0	3	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	1	0
e-1015	急性又は慢性と明示されない気管支炎	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1016	慢性閉塞性肺疾患	男	103	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	13	73	5	9
		女	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0	2
e-1017	喘息	男	198	0	1	0	0	143	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	46	3	1
		女	132	0	1	0	0	66	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	53	3	0
e-1018	気管支拡張症	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0
e-1019	じん肺(症)	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
e-1020	間質性肺疾患	男	63	0	1	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	51	0	4
		女	31	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	23	1	1

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
o-1021	気胸	男	81	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	32
		女	16	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	2
o-1022	その他の呼吸器系の疾患	男	292	0	33	1	4	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	20	164	20	22
		女	193	0	42	0	0	4	10	3	1	0	0	0	0	0	0	12	22	80	14	5
o-1104	口内炎及び関連疾患	男	3	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1105	その他の口腔、唾液腺及び咽の疾患	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
o-1106	胃潰瘍	男	49	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	32	2
		女	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6	13	0
o-1107	十二指腸潰瘍	男	31	0	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	18	0
		女	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
o-1109	胃炎及び十二指腸炎	男	16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	11	0
		女	12	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	5	0
o-1110	その他の食道、胃及び十二指腸の疾患	男	38	0	6	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5	18	0
		女	29	0	8	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	11	0	0
o-1111	虫垂の疾患	男	51	0	50	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	45	0	36	0	0	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
o-1112	胃腸ヘルニア	男	73	0	71	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	16	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1113	その他のヘルニア	男	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	12	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
o-1114	クローン病	男	8	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
		女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1115	潰瘍性大腸炎	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
o-1116	腸閉塞	男	44	0	31	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	9	0
		女	65	0	25	0	0	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	28	0
o-1117	過敏性腸症候群	男	17	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6	0
		女	41	0	21	0	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	5	0	0
o-1118	便秘	男	17	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0
		女	26	0	2	0	0	13	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	5	0	0
o-1119	裂肛及び痔瘻	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1120	その他の胃腸の疾患	男	117	0	31	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5	4	73	0
		女	76	0	23	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2	42	0
o-1121	胆膵の疾患	男	28	0	20	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4	0
		女	26	0	12	0	0	0	5	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	6	0	0
o-1122	アルコール性肝疾患	男	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	27	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
o-1124	肝硬変(アルコール性のものを除く)	男	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0
		女	12	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1
o-1125	その他の肝疾患	男	42	0	4	0	0	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	22	1	1
		女	53	0	5	0	0	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	5	3	17	0
o-1126	胆石症	男	174	0	73	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	65	0
		女	102	0	49	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3	45	0
o-1127	胆のう炎	男	17	0	6	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0
		女	10	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0
o-1128	急性膵炎	男	12	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0
		女	16	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0
o-1129	慢性膵炎	男	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1130	その他の膵疾患	男	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
o-1131	その他の消化器系の疾患	男	116	0	27	1	1	7	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6	5	69	0
		女	72	0	20	0	0	6	5	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	5	29	1
o-1201	皮膚及び皮下組織の感染症	男	58	0	4	0	0	24	0	5	9	4	0	0	0	0	0	2	2	8	0	0
		女	41	0	1	1	0	15	3	6	3	0	0	3	0	0	0	2	1	6	0	0
o-1202	アトピー性皮膚炎	男	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1203	接触皮膚炎	男	4	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1204	その他の皮膚炎及び温疹	男	12	0	0	0	0	7	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0
		女	12	0	4	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0

コード	病 名	性別	総 数	内 科	外 科	心 臓 血 管 外 科	頭 頸 外 科	小 児 科	産 婦 人 科	整 形 外 科	皮 膚 科	泌 尿 器 科	眼 科	耳 鼻 科	精 神 科	放 射 線 治 療 科	麻 酔 科	神 経 内 科	消 化 器 内 科	呼 吸 器 内 科	尿 化 器 内 科	呼 吸 器 外 科
a-1208	じんま疹	男	9	0	2	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
		女	5	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1212	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	男	35	0	10	1	0	3	0	5	8	0	0	0	0	0	0	0	5	3	0	0
		女	33	0	8	0	0	3	0	2	15	0	0	0	0	0	0	3	0	3	2	0
a-1301	関節リウマチ	男	12	0	1	0	0	1	0	4	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0
		女	38	0	0	0	0	7	1	19	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9	0	1
a-1302	痛風	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1303	その他の炎症性多発性関節障害	男	15	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	7	0
		女	5	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
a-1304	関節症	男	38	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
		女	120	0	0	0	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
a-1305	四肢の先天性変形	男	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1306	腱内障	男	30	0	0	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	36	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1307	関節痛	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1308	その他の関節障害	男	12	0	1	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	21	0	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1310	乾燥症候群[シェーグレン症候群]	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
a-1312	その他の全身性結合組織障害	男	34	0	0	1	0	21	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	7	0	0
		女	36	0	0	0	0	21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	10	1	0
a-1313	脊椎障害(脊椎症を含む)	男	101	0	3	0	75	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	9	2	3	2	0
		女	31	0	0	0	20	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0
a-1314	椎間板障害	男	25	0	1	0	17	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	12	0	0	0	10	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1318	腰痛症及び坐骨神経痛	男	5	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	6	0	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
a-1317	その他の背部痛	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1319	その他の脊髄障害	男	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1319	軟部組織障害	男	27	0	1	1	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	2	2	7	4	0
		女	28	0	2	0	0	3	0	11	0	0	0	0	0	0	0	2	1	5	2	0
a-1320	肩の傷害<損傷>	男	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
a-1321	骨折しう症	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	0	0
a-1322	その他の骨の密度及び構造の障害	男	6	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1323	骨髄炎	男	6	0	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
a-1324	若年性骨軟骨症<骨端症>	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	男	10	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	31	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1401	急性及び急速進行性腎炎症候群	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1402	ネフローゼ症候群	男	6	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	4	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1403	その他の糸球体疾患	男	5	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
a-1404	腎臓臓器間質性疾患	男	48	0	4	0	0	5	0	0	0	22	0	0	0	0	0	2	6	8	1	0
		女	80	0	4	0	0	4	24	0	0	16	0	0	0	0	0	3	8	16	5	0
a-1405	慢性腎不全	男	43	0	5	2	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	23	8	1	1
		女	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	3	2	1
a-1406	その他の腎不全	男	33	0	4	4	2	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	1	8	8	2	0
		女	30	0	2	3	0	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	2	12	3	2	0
a-1407	尿路結石症	男	19	0	0	0	0	1	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
a-1408	膀胱炎	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
o-1409	その他の腎尿路系の疾患	男	116	0	9	0	1	24	0	0	1	17	0	0	0	0	0	9	15	33	7	0
		女	118	0	11	0	0	19	7	0	1	6	0	0	0	0	0	18	17	25	14	0
o-1410	前立腺肥大(症)	男	37	0	0	0	1	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	2	4	4	4	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1411	その他の男性生殖系の疾患	男	43	0	2	0	0	3	0	0	0	33	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1412	乳房の障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1413	卵管炎及び卵巣炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	24	0	1	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
o-1415	その他の女性骨盤臓器の炎症性疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	29	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
o-1416	子宮内膜炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	151	0	1	0	0	0	150	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1417	女性性器脱	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	11	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
o-1418	卵巣、卵管及び子宮広間膜の非炎症性障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	25	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
o-1419	月経障害	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	13	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
o-1422	その他の女性生殖系の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	177	0	1	0	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
o-1501	自然流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1502	医学的人工流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	19	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1503	その他の流産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	41	0	0	0	0	0	41	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1504	経緯高血圧症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	24	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1505	経緯早期の出血(切迫流産を含む)	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	26	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1506	前置胎盤、胎盤早期剥離及び分娩前出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	15	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1507	その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに予想される分娩の諸問題	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	251	0	0	0	0	3	248	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1508	早産	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1509	分娩後出血	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	10	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1510	単胎自然分娩	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	184	0	0	0	0	0	184	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1511	その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	188	0	0	0	0	0	187	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
o-1512	主として産後に関連する合併症及びその他の産科的病態、他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	6	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
o-1601	経緯期間及び胎児発育に関連する障害	男	53	0	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	61	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1602	出産外傷	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1603	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	男	61	0	0	0	0	61	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	66	0	0	0	0	66	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1604	周産期に特異的な感染症	男	18	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	17	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1605	胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害	男	57	0	0	0	0	57	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	45	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1606	その他の周産期に発生した病態	男	165	0	0	0	0	165	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	180	0	0	0	0	179	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1702	その他の神経系の先天奇形	男	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-1703	心臓の先天奇形	男	27	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0
		女	28	0	0	0	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0
o-1704	その他の循環器系の先天奇形	男	4	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
		女	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
c-1705	唇裂及び口蓋裂	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1707	その他の消化器系の先天奇形	男	5	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1709	その他の腎臓泌尿器系の先天奇形	男	5	0	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	10	0	0	0	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1713	その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	男	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1714	その他の先天奇形	男	18	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	1
		女	6	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1715	染色体異常、他に分類されないもの	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1801	腰痛及び骨盤痛	男	4	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	19	0	1	0	0	2	10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0
c-1802	めまい	男	11	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	3	1	1	0	0
		女	13	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	2	3	2	1	0
c-1803	不明熱	男	32	0	1	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	3	0
		女	30	0	1	0	0	21	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
c-1804	頭痛	男	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1805	老衰	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1808	その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	男	414	0	54	5	9	121	0	5	0	13	0	1	0	0	0	51	47	78	29	1
		女	342	0	67	1	8	91	23	2	0	5	0	2	0	0	0	37	28	43	35	0
c-1801	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	男	32	0	11	0	15	0	0	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	14	0	7	0	4	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
c-1802	頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊髄を含む)	男	104	0	28	2	33	0	0	14	0	1	0	0	0	0	0	0	5	10	2	9
		女	86	0	27	0	22	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	4	0
c-1803	大腿骨の骨折	男	48	0	0	0	0	0	0	48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	115	0	2	0	1	0	0	107	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0
c-1804	その他の四肢の骨折	男	154	0	19	0	8	0	0	119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
		女	118	0	14	0	2	0	0	101	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1805	多部位の骨折	男	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
c-1808	明示された部位及び多部位の脱臼、捻挫及びストレイン	男	239	0	28	0	7	0	0	204	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	251	0	29	0	3	1	0	215	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0
c-1907	眼瞼及び眼窩の損傷	男	6	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1908	頭蓋内損傷	男	108	0	17	0	87	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	48	0	8	0	38	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0
c-1909	その他の内臓の損傷	男	84	0	27	0	13	0	0	5	0	5	0	0	0	0	0	1	1	2	0	10
		女	37	0	24	0	5	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
c-1910	明示された部位及び多部位の挫滅損傷及び外傷性切創	男	7	0	3	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1911	その他の明示された部位、部位不明及び多部位の損傷	男	273	0	141	6	38	9	0	84	0	4	0	0	0	0	0	2	3	2	1	2
		女	181	0	112	0	24	6	0	43	0	2	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0
c-1912	自然開口部からの異物侵入の作用	男	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0
		女	10	0	1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0
c-1913	顔傷及び歯齦	男	7	0	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	14	0	5	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
c-1914	薬物、薬剤及び生物学的製剤による中毒	男	8	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	0
		女	12	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	1	0
c-1915	薬物を主とした物質の毒作用	男	13	0	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	1	0
		女	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
c-1916	虐待症候群	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1917	その他及び詳細不明の外因の作用	男	52	0	11	0	0	28	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	4	6	2	0
		女	47	0	2	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	10	0	0
c-1918	外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	男	64	0	24	3	4	3	0	7	0	4	0	0	0	0	0	0	8	4	6	1
		女	62	0	19	0	2	6	14	4	0	1	0	0	0	0	0	13	1	1	2	0
c-1919	損傷、中毒及びその他の外因による影響の疑念・後遺症	男	7	0	0	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-2104	伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのあるその他の者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

コード	病名	性別	総数	内科	外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科	産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	眼科	耳鼻科	精神科	放射線治療科	麻酔科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	呼吸器外科
o-2106	分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	8	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-2107	その他の生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
o-2110	特定の処置(歯の補てつを除く)及び保健ケアのための保健サービスの利用者	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
o-2112	その他の理由による保健サービスの利用者	男	55	0	16	0	1	9	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	23	2	0	1
		女	28	0	17	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0

(3) 図書蔵書状況

蔵書状況(2015年12月31日現在)

	図書	視聴覚資料	計
外国	47冊	0巻	47
国内	942冊	98巻	1040
合計	989冊	98巻	1087

雑誌受入タイトル数

外国雑誌	21タイトル
国内雑誌	67タイトル
計	88タイトル